

# 米国東部法会での説法

李洪志

一九九九年三月二十七、二十八日ニューヨークにおいて

本来、今回の法会は米国東海岸の法輪大法の弟子が開く法の勉強会と交流会でしたが、現在の状況から見ると、在席の多くの方は他の国と地区から駆けつけてきたようです。皆さんは師父が多分来ると思っていたようです。ここで言うておきますが、今後どこかの地区で交流会を開いても、私は行かないかもしれません。あなたも無駄足を踏まずに済むのです。世界各地に毎週のように大法交流会が開かれていますので、私は全部に参加するわけにはいきません。このことを皆さんにまず言うておきたいと思っています。

もう一つですが、今回の交流会は非常によく取りまとめられています。多くの学習者は黙々と多くの事を行い、大会のために多大な努力を捧げました。ここで私は皆さんを代表して、この環境を提供して下さった学習者に感謝の意を表したいと思います。同時に、今回の大会を成功裏に開きたいと思います。大法の法会は決して形式的なものになってはならず、真に自ら向上させ、自分にある差と足りない所を見出し、皆さんの向上と圓滿成就を促進することができるような大会にすべきです。そうすることによって、大会のために貢献した学習者の気持ちを無駄にせず、大会が果たすべき作用を真に発揮することができるようになります。各地で交流会を開く時もこのようにしなければならず、このような大会を皆さんの修煉と向上に本当に役立つものにし、形式的なものになってはいけません。

修煉は人数の多さを見てはいけません。私は話したことがあります、私は人が多いか少ないかのことを気にしません。百分の一の人が修煉していれば、私が行ったことも無駄になっていません。ましてや多くの方が修煉しています。皆修煉しており、しかも大きく向上しており、迅速に向上しています。皆さんも非常に精進しています。このことは私も目にしました。現在大法が全世界でますます多くの人々に認識されつつあるので、大法を学ぶ人はますます多くなります。それによって、幾つかの問題が伴ってきます。つまり、当初皆さんがこの法を認識した時、多くの疑問を持っており、認識が足りないために生じた問題が現れてきます。在席のこれらの新しい学習者は、どの民族の人であっても、どの国の人であっても、法を学ぶ時に絶えず本を読んではじめて、心の中の疑問を解かすことができます。修煉の時に繰り返し本を読むように

と私は毎回言っています。なぜ私は再三にわたってこの話を繰り返すのでしょうか？ 毎日新しい学習者が入ってきて学んでいるので、この話は今後も言い続けなければなりません。つまり、私がこの法を伝えだしたのは人々が修煉でき、向上できるようにするためです。これも間違いのないことであり、実践の中でこの点をやり遂げることができることも証明されました。

しかし、ご存知のように、私はこの世においてこの肉体を持っている一人の人間です。もし一人一人の学習者にどのように修めるかを教えるのであれば、これはなかなか難しいことです。なぜならば、一億以上の人々が学んでおり、将来更に多く更に多くなります。この大法が伝えられました。私はこの世で一人一人に会って皆さんに説き、教えることができません。しかし、また皆さんに向上させ、本当に向上させ、ひいては圓滿成就までさせなければなりません。私がこのことをやり遂げることができなければ、皆さんを騙していることになるのではありませんか？ しかし、実践が証明したように、皆さんは修煉して向上してきただけでなく、修煉が非常に良くできています。これは私が皆さんのために責任を負うことができ、私の言ったことが目的に叶っているということを証明しました。先ほどお話しましたが、多くの学習者がおり、私は皆さんに会うことができず、自ら手取り足取り皆さんに教えることはできませんが、『転法輪』を読みさえすれば、得るべき全てを得ることができます。（拍手）ご存知のように、この本は普通の本ではなく、それは法なのです。人類社会に各種の法律、理論や学説がありますが、皆さんに教えますが、それらは全て人間のものです、人間が常人社会という次元に持っているものです。それに対し、今日私が皆さんに教えているのは、人類社会の全ての学説と全ての常人の法をはるかに超えたものです。このようなものである以上、中に偉大で不思議な内涵があります。つまり、修煉したければ、この法は真にあなたを導き向上させることができます。この本は見た目では、白い紙に活字があるだけで、普通の本と何も違いはありません。しかし、人間の目は常人社会という空間に限られて物事を認識することしかできず、この範囲を超えればそれが見えなくなります。現在の科学もそこまで発展することができず、認識することができません。しかし、他の空間において、私たち人類がまだ認識していない更に高い境地に異なる生存環境とそれらの生命が生存する空間があります。つまり、人間のこの空間でそれが一冊の本にしか見えませんが、他の空間ではそれを見るとこのような状態ではなく、それは天法なのです。私はここで李洪志がいかに偉いかを言っているわけではありません。私はいつも皆さんに言っていますが、私は取りも直さず一人の人間であり、私が偉大だと思わなくても結構です。私が皆さんに教えているのはこの法であり、皆さんが集まって修煉し、向上し、この法を認識することができるようにしました。

多くの学習者が私に会えないので、私はいつも「法を師にするように」と言っています。この法は皆さんの修煉の中の全てを指導することができ、白い紙と活字の背後に無数の佛、道、神がいます。本を読むとき、向上したければ、ある境地まで到達し、つまりあなたの境地に相応する次元まで到達したいと思っていれば、各文字の背後にいる神はその字の背後にある異なる次元での本当の内涵をあなたに分かせるのです。これは皆さんが繰り返し本を読んでいるとき、なぜ同じ一文を何回読んでも認識が異なるかの理由です。在席の中に百回以上読んだ人は少なくありません。一億以上もの大法弟子の中にこの本を百回以上読んだ人は既に少なくありませんが、皆さんはまだ読み続けています。皆さんは既にこの法を手放すことができません。なぜならば、読めば読むほど中に多くのものが含まれていると気づき、読めば読むほど多くのことが分かったからです。現在の科学が認識したのものをも含む、人類が認識したものをはるかに超えているので、皆さんは向上することができます。もちろん、法はあなたの向上と修煉を指導し、多くのことをもやってあげることができます。しかし、皆さんに教えますが、あなた自身の修煉こそが極めて重要なのです。もし修煉するという心がなければ、何も始まりません。必ず確固とした修煉の気持ちを持つべきです。法の勉強を通じてこれらの道理が徐々に分かってくるので、あなたの心もだんだん固められます。疑問があることを恐れなくてください。皆さんが問題に気づくことができることを見て私は非常に嬉しいのです。多くの解けない問題、聞きたい問題がありますが、実は修煉の中で絶えず本を読むことによってそれらの問題が回答されます。多くの古くからの学習者は知っていますが、一回目に本を読むとき、多くの質問があり、これはなぜでしょうか、あれはなぜでしょうかという具合です。ひいては多くの考えは認識の初級段階にとどまっています。例えば、これは本当の話ですかなどのような考えがあります。しかし、二回目に読めば、あなたにある全てのこのような考え、質問は答えられます。二回目に読むときに同様に新しい問題が現れますが、三回目に読むときにそれも回答されます。他でもなく、このように、徐々に進むという過程です。とても簡単に見えますが、実は皆さんに教えますが、これが修煉です。毎回毎回読んでいるうちに既に向上の中にあります。

ご存知のように、現在一億以上の方が法を得ました。歴史上伝えられた正法はこれほどの人数に達したことはありません。もちろん、私は更に多くの人に法を得させます。古くからの学習者なら知っていますが、現在歴史の特殊な状況下にあるので、これほど大きな法を伝えました。ですから、修煉の中で必ず本を多く読むべきです。これは皆さんの向上にとって極めて重要な一歩です。必ずそうしなければなりません。人間が常人社会で接触したのは常人社会の現実的なものです。時間を大切にし本を読

まなければ、あなたの修煉の気持ち、修煉の心が薄れ、修煉の中で精進しなくなり、ひいては修煉を放棄することまであり得ます。しかし、私はいつも思います、人間が既に法を得ましたが、それは容易いことではないので、大事にしなければ本当に惜しいのです。なぜならば、これは千年、万年の歴史上、天地開闢以来なかったことだからです。今まで、宇宙の真の法を人間に説くのは全くあり得ないことでした。

先ほども言いましたが、今は歴史の特殊な時期なので、私はこの法を説きました。将来の人類社会に大きな変動があります。宇宙に多くの特殊な現象が現れます。現在の科学は既に発見しましたが、絶えず新しい天体が形成され、古い天体が爆破しています。最近新聞もよくこのようなことを載せています。今まで何もなかったところに恒星系が現れ、多くの古い天体が解体し、多くの新しい天体が現れています。これは遙か遠い天体で現れたことですが、徐々に私たち人類の肉眼で見えるこの空間範囲に近づいてきます。これらの光景が現れてきます。もちろん、私がこれらのことを話したのは、私が歴史の特殊な状況の下でこの法を伝えたのであって、くれぐれも法を大事にするようにと皆さんに教えたいからです。法を勉強しなければ、法の貴重さも分かりませんが、法を勉強することができれば、勉強すればするほどその貴重さが分かってきます。

人類社会の全ての宗教は全部、千年以上または千年前後の時間を経ました。長い歲月の中で宗教の最も本質的な、最も根本的なことを失いました。つまり、人々を元に向って圓滿成就まで昇華させ、天国世界に行かせる目的に達することができなくなりました。現代において宗教は既にこのような作用を働くことができなくなり、人間は自分の想像の中で生活しているだけです。ですから、私はこの時期を選んで大法を伝えることにしました。皆さんが知っておかなければならないのは、この法を伝える時、もし目的に達することができなければ、それに伴って非常に恐ろしいことがもたらされます。いままで私はこのことに触れませんでした。このことを言う前に、まずある社会現象についてお話します。ご存知のように、人類社会に、特にこの千年、二千年の間、善、悪、中性の学説が非常に多く、その上各種の宗教の学説もあります。特にいくつかの正教は初期の時、人々を良い人間にすることが目的であるため、人類社会の道德の基準を維持するのに大きな役割を果たしました。同時に、更に良い人間になった人々は次元が高められ、彼らの天国に戻りました。しかし、長い歲月の中でこれらの学説は徐々に現在の人間の考えによって薄められ、人間もこれらのことを受け入れられなくなり、また信じなくなりました。教会堂に行って礼拝するのはモダンな行動とし、真にイエスまたは聖母マリア或いはエホバの言ったとおりに行動しようとしていません。これをやり遂げることができなければ、天国世界に行くことができませ

ん。佛陀の要求に照らして行動しなければ、天国に行くことができません。彼らの要求に照らして行ったという人がいますが、実はどのように彼らの要求に照らして行くかということさえあなたには分かりません。これは私が言った、宗教の中においても修煉することができず、あなたを元の位置に戻らせることのできない根本的な原因です。

今日私はこれほど大きな法を伝え、全ての人々の心を震撼させました。本さえ読めば、これが良い本であると分かり、本さえ読めば、法の偉大さが分かります。私が言ったのは宇宙の中の本当の理であり、人々はきっとこの法に震撼されます。非常に悪くなった人、宇宙の特性に完全に背離した人でも、この法に震撼されます。なぜでしょうか？ このような人は既に完全に法と対立し、恐怖の念と憎悪の念を抱くようになります。つまり、このような人は既におしまいになりました。ですから、全ての人はこの法に震撼されます。この法に同意するか、または反対するかのいずれかです。

先ほどお話しましたが、この大法を伝えるとき、非常に深刻な問題がもたらされました。古今東西の全ての理論は人間の心を再び最も良い時期に戻らせることができませんが、私が伝えているこの宇宙の根本的な大法は実践で証明されたように、人々を圓滿成就させることができます。しかし、もしこの法が皆さんを元に戻らせることができなければ、古代から現在まで、将来までも人類に皆さんを元に戻らせる方法はありません。人類にもう何の望みもありません。これは極めて危険なことです。この法が本当にこの作用を働くことができず、または破壊されれば、人類にはもう希望はありません。(拍手) なぜならば、これは宇宙の至高の法理であり、宇宙の根本的な大法の力を果たすことができる法理はもうないからです。しかし、実践が既に証明したように、私は皆さんを率いてこの一步を歩んできました。私は真に学習者を向上させ、弟子を修煉によって真に向上させました。しかも、更に多くの人々に法を認識させることができました。人類社会の道徳がいくら急落しても、いくら悪くなっても、人間が無知の中で悪いことをし、間違ったことをしていますが、一旦この法を知るようになったら、この法に従って行うことができると私は気付きました。つまり、人間にはまだ佛性があり、善の念、善良な本質があるということです。ただ知らないから多くの良くないことをしました。

私は皆さんを導いてこの一步を歩んできましたが、私にとってこれは非常に嬉しいことです。(拍手) 私たちの学習者、人類社会にとって、それこそ最も喜ばしいことです。なぜならば、皆さんは本当にその最も恐ろしい危険な状態を乗り越え、そこから抜け出すことができたからです。(拍手) ご存知のように、歴史上多くの預言者、気功師、宗教の中の悟りを開いた人がこの世紀の末ごろに人類にあれこれの災難

が起こり、ひいては人類は消滅される状態に曝されると言いました。もちろん、これは私が言ったことではなく、私はそれらの預言者が言ったことを話しているだけです。

災難が起こるかどうかについて、私は人類に明確な答えを出すことができます。ご存知だと思いますが、私が『転法輪』の中であげた一つの腐ったリンゴの例のように、地球はこの膨大な宇宙の中で私たちがリンゴを見ているのと同じで、既に腐りきっているのです。リンゴの中の一つ一つの分子は一人一人の人間のようであり、既に腐っていますが、このリンゴを消滅し、捨てて処分すべきではないのでしょうか？ もし人類社会の道徳がここまで低下したら、神の目から見れば、あの腐ったリンゴのように消滅されるべきではないのでしょうか？ しかし、神として、ご存知のように、特に人類に近いところにいる次元の神は人間に対して慈悲深いのです。彼らは人類を救いたいと思っています。しかし、皆さん考えてみてください。一つの腐ったリンゴを救うことですが、この腐ったリンゴを捨てずに部屋に置いておけば、ますます腐り、ウジがわいてきます。きれいな部屋にウジがいっぱい湧いている腐ったリンゴが置かれています。どうしてそこに置くことができるのでしょうか？ どうしてもそこに置くのであれば、あなたは悪事を働いているのではありませんか？ この宇宙のように、この地球は既にこのようになっていますが、まだそれを消滅しないのでしょうか？ それを消滅しない神がいれば、その神は悪事を働いているのではありませんか？ しかし、神は人間とは違います。神には力があり、神は最も原始の粒子からリンゴを新鮮なものにし、再びそれを新鮮なリンゴにすることができます。その構造を変え、それによってリンゴは良いリンゴになりました。このとき誰かがこのリンゴを捨てようとするれば、その人も悪事を働くことになるのではありませんか？ しかし、これは普通の神にできることではありません。

今日全世界に一億の人が修煉しており、自分の考えを変え、良い人として振舞っており、善に向かい、本当に宇宙の異なる次元での基準に達する人間として行動しています。それでは、この地球を爆発させることができるのでしょうか？ それを消滅させることができるのでしょうか？ 預言者たちが言った予言は実現されるのでしょうか？ それは実現されないこととなります。私が言いたいのは、如何なる予言であっても、今日になると、その予言は効かなくなります。なぜならば、今日人類社会で大法が伝わっており、人心は回復し、急速に回復しているからです。昨日、ある記者は、「現在一億の人が学んでおり、しかもこの勢いは急速に広がっており、さらに多くの方が学ぼうとしています」と、私に言いました。現在、一億の人々は自分の道徳を向上させており、この一億全ての人々がもう一人に伝え、学びに来てもらえば、二億人になります。この数字は非常に速い速度で増えており、非常に大きな数字となりま

す。人々は皆善に向かい、良い人として振舞っており、自分の道德基準を高めています。人類社会は、先ほど私があげた例のように、このリンゴが新鮮なものになれば、それを消滅する人がいるのでしょうか？

人類社会の発展、宇宙の中の全ての状態は神によって按排され、全てに規律があります。なぜならば、人類社会に戦争、地震、洪水、伝染病、疫病などを含む良くない状態、他の多くの自然災害が現れますが、実はそれには目的があって、人間の業を滅しているのです。人間の考えは神によって指揮されていますが、人間は自分の考えの由来について考えたことはありません。人間は何かをしたいとき、頭が働き、いわゆるひらめきが現れ、急に何かを思い出します。人間は自分でそれを考え出したと思いますが、実は多くの場合は違います。神は人類社会の全てを確実に支配しています。しかし、宇宙に一つの理があります。つまり人間が何をやりたいのか、人間は一人の個体として自分が何をやりたいのか、やはり本人の考えを見るのです。修煉したければ、あなたの修煉を手伝いますが、良くなりたくなければ、好きなようにさせます。それによって、人間は非常に悪くなります。しかし、人類社会の全体が神によって制御されているため、人間が良くなれば、良い未来、光に満ちた前途を手にすることができます。悪くなったら、良くない未来、暗闇と悪業が人間を待っています。

先ほど、皆さんの修煉と私のこの法に言及したときに、そこから引き出された話ですが、その目的はこの法を大切にしよう皆さんに教えるところにあります。今日一億の人が学んでおり、皆さんは既に歴史を変えましたが、これは喜ばしいことではありませんか？ これは偉大なことではありませんか？（拍手）しかし、まだ多くの良くない人がおり、まだ悪事を働いています。ですから、人類に予言者が言ったような大きな災難は現れていませんが、局部にやはり非常に良くないことが現れます。なぜならば、そこに法がないからです。

今日は法の勉強と体験交流会なので、皆さんの時間を多く使いたくありません。ただ皆さんに会ってみたいだけです。学習者の発表と交流を通じて、皆さんは何らかの向上と認識を得ることができ、これは私たちの法会の趣旨です。もちろん、皆さんに多くの質問があり、時々刻々新しい学習者が学んでいるので、新しい学習者は質問を出すのです。また古くからの学習者からも質問が出されています。ですから、明日の午後皆さんの質問にお答えします。先ほど、皆さんに法を大切にし、法を多く勉強するようにと教えました。必ず繰り返し本を読むべきであり、このようにすればあなたは既に向上の中にいます。私は私の能力をこの大法に注ぎ込んでおり、学んでいればあなたは変わっており、向上しており、最後まで学ぶことができれば圓滿成就するこ

とができます（拍手）。

ついでに幾つかの小さな問題についてお話します。一つは、古い学習者は圓滿成就していない限り、これからは外に出て煉功すべきです。このことを私はもう一回言います。なぜこのように言わなければならないのでしょうか？ 私たちの修煉環境、法を勉強する時の環境、学習者が一緒に話し合っている事、言った話は皆高尚なもので、とても得がたく最も純粹で清らかな環境だからです。これは人類社会において非常に得がたいことであり、最も善良で素晴らしい浄土です。ですから、皆さんはこの環境を失ってはいけません。なぜならば、人類社会はまだ滑落し続けており、ますます悪くなっているからです。皆さんは常人社会で仕事や社会活動をもっており、常人や常人社会と接触しています。このようにあなたが影響されたもの、目で見えたもの、耳で聞いたものは全て常人の中のことで、あなたの修煉は妨害されるのです。ですから、皆さんが時々一緒に法を勉強し、このきれいな水で自分を洗うのはメリットがあります。

もう一つですが、最近私は二つの文章を書きました。皆さんはそれを経文と呼んでいます。その文章に出された問題は非常に厳しいもので、現在比較的突出している問題でもあります。つまり、低次元で悟りが半分開いた人のことですが、この部分の人は次元が高くなく、法に対する理解が不十分であるため、私の説いた多くのことを完全に理解することができません。このような人が低い次元で悟りが半分開いていれば、高次元の空間（上の空間で法が正され、古い宇宙が解体し、新しい宇宙が建てられているので、この現実から逃れるため、人間のこの空間に逃げてきて、人類の空間に入り込んで避難しています）から三界に逃げてきたそれらの良くない高次元の生命、またはもともと三界にいた低い次元の神が見えます。彼らは宇宙に起きたことの真相が見えません。もちろん、三界に入ってくる前はそれを知っていますが、入ってから何が起こったのか分かりません。つまり、彼らは完全にここに封じ込められてしまったのです。

彼らの多くは法を正すことと大法に抵触しているものです。しかし、真相を知らないものも多くいます。つまり、もともとこの空間の神ですが、この現実には接触していないため、真相を知らないのです。そのため、彼らも大法の学習者を妨害することができます。故意に妨害する者もいます。自分が宇宙の大法を妨害しているとは知らず、大きな罪を犯していますが、これに気づいていません。なぜならば、宇宙の真相は現在覆われており、彼らに見られないようにしているからです。彼らは三界内のことしか見ることができません。現在大法は既に三界に入っており、三界内で法を正してい

ます。

したがって、低い次元で天目が開いた人に大きな妨害がもたらされました。天目が開いた学習者がいますが、彼に偉大な神、素晴らしい神が見えました。この神は学習者に大法を破壊することを教えました。もちろん、それは神の作り話です。その目的は学習者を惑わし、大法から淘汰されるところにあります。また、一部の神は私の法身を装って、皆さんにどのようにすべきかを教えています。修煉中の弟子にどのようにすべきかをはっきり教えたのはきっと大法と学習者を破壊しにきたものです。なぜあなたは利用されたのでしょうか？ あなたに強い執着があるから利用されたのです。道は自分で決めるものです。将来の位置もあなたの生命が置かれるべき位置なのです。皆さん考えてみてください、この空間は私が法を正すことがここまでやってくる前にも、私に制御されています。

なぜ彼らがこのようなことをするのを許しているのでしょうか？ あなたの修煉は順風満帆に進んではいけないからです。将来、あなたは偉大で圓滿成就した神として天国世界に現れたとき、「あなたはどのように修煉して上がってきたのか」と神々に聞かれます。厳しい試練を経たかどうか、修煉の中でこの法を修め続けるかどうかを試す本当の関があったかどうか、難の中で確固としているかどうか、などは極めて重要なのです。ですから、逆にこの妨害を利用してあなたの心を見えています。このような試練に耐えられず、法から離れた人、動揺してしまった人がいます。しかし、この状況がますます激しくなったため、私はここでそれを取り上げて、法から離れた人たちに最後のチャンスを与えます。でなければ、彼らはこの機会を失います。皆さん考えてみてください、宇宙で法を正す中で、多くの大きな神が悪くなって、落とされました。彼らは人間になる機会さえ失いました。人間よりも低いところに落とされた神、消滅された神もいます。人間はなおさらです！ ですから、この機会を失えば、将来に二度と機会はありません。もちろん、何を得るのかは自分で決めることです。私がこのことを書いたのは、この機会を失わないようにと皆さんに教えるところにあります。

もう一つの文章ですが、以前宗教を信仰していた人、または他のものを練習していた人も大法を学びに来ました。宇宙の真相がますます現れてきたので、高次元の生命はなんと言ってもある程度の能力があり、この大法だけが真に人間を元に戻らすことができ、その他の如何なる修煉方法も人類社会で人間を元に戻らせることができないと彼らも気づきました。そのため、彼らに属する人または分かっているようで分かっていないような人が大法に入りました。彼らの目的は大法を利用して、自分が得たい

その位置に戻るところにあります。彼らは実質上、自分のものを放棄することができず、私と大法を利用しているだけで、本当に大法の中で修煉したいのではありません。彼らが放棄できないのは自分が今まで思っているそれらの神、自分が執着しているもの、ひいては既に淘汰され存在していないものです。

彼らは人間のところにいるため、これらのことを何も知りません。大法を利用したいという心自体は犯罪なのです。私はあなたを相手にせず、手放すことができますが、なんといってもあなたはこの法と出会いました。心が不純ではありますが、本も読んだので、私はもう一回彼にこの機会を与えたいと思い、このことをはっきりと明かしたのです。これでも自分の考えを変えることができなければ、あなたは永遠にこの機会を失います。機会を失ってはならず、時機は再びやって来ないと私は言いました。大法は厳粛であり、修煉は厳粛であり、子供の遊びではありません。欲しいと思えば得ることになるのでしょうか？ それを得たい時期に得ることができるのでしょうか？ それはあなたが決めることではありません。失ったら永遠に失うこととなります。

もう一つのことですが、学習者の中に若い弟子が多くいますが、生活上のことにくれぐれも気をつけるべきです。男女関係において、決して常人社会の墮落した行為へ逸れてはいけません。妻や夫を持つことができますが、それは正当なことです。皆さんが最大限に常人社会に合わせて修煉するのは問題がありません。夫婦間の生活があるのは問題ないのです。もし夫婦でないのに、性行為があれば、それは最も汚いことをしているのであって、神に絶対認められないことであり、どの神にも認められないことです。ですから、くれぐれもこのようなことに気をつけてください。一人の人間の修煉の過程は一人の修煉者の歴史であり、無数で計り知れない神は大法弟子の一念、一挙一動を見ています。修煉者は圓滿成就に向かうという決心があるのに、なぜこの関を乗り越えることができないのでしょうか？ 今日はこのくらいにしましょう。大会が圓滿に行われることを望んでいます。明日の午後皆さんの質問にお答えします。続けて交流会を行い、学習者は自分の体験を発表してください。（拍手）

こんにちは！

この二日の法会から見ると、法会は確かに成功裏に行われました。このような法会はいくら開いても多すぎることはありません。学習者が法会を通じて受益し、法会の中で向上し、お互いの差を見出すことができ、これによって、皆さんが絶えず精進するよう促進されました。これは非常に良いことです。法会の目的は取りも直さずこう

いったことです。皆さんの修煉に役立つことは大法法会の目的です。これ以外に、皆さんも聞いたことがあるかと思いますが、今回の法会にある目立った特長があります。つまり、白人の学習者の法に対する認識はますます深まりました。今回は白人学習者が自分の認識を最も深く語ったと思います。(拍手) これは彼らが絶えず法を勉強し、法に対してますます明確とした認識を持っているため、真に法に基づいて自分を語る事ができました。これは非常に素晴らしいことです。今日の午後は質疑応答をします。それでは、皆さんの質問にお答えします。

弟子：大法の音楽「普度」を聞いた後、思わず涙を流してしまいましたが、これほど人を感動させる音楽はどこから来たのでしょうか？

師：昨日から会場で音楽を流しているの、皆さんも聞きましたが、この音楽から悲壮感を受けると思います。これは私たち大法の音楽です。大法の学習者がますます増えていることを考慮し、煉功の音楽テープを社会に普及させ、社会の出版部門に出版してもらいたいと思っています。そのため、著作権の問題が絡みました。ですから、私は二通り用意しました。一つは作者と著作権のことを相談すること、もう一つは音楽家である学習者に私たちが必要としている煉功音楽を作曲してもらうことです。私は自ら学習者にどのようにすべきかを教えました。彼は早速この音楽を作曲しました。彼は二曲作りしました。つまり、「濟世」と「普度」です。一方、以前私たちが使っていた音楽の作曲者もこのとき法を学んでおり、しかも無条件にこの音楽を大法に贈りました。(拍手) もちろん、これは功德無辺のことです。ですから、これは非常に良いことだと思えます。皆さんも続けて以前の音楽で煉功すればよいのです。なぜならば、皆さんは既にあの音楽に聞き慣れているからです。

皆さんへの影響も大きいので、以前の音楽で煉功すれば、何も変える必要はありません。これは非常に良いことです。しかし、この新しく作曲された音楽は非常に素晴らしく、それを聞いて皆非常に良いと感じましたが、あまりに悲壮なのです。あまりに悲壮になると、人間は涙を流し、すぐ感動してしまい、内心が動き、煉功の時静かになりません。ですから、この音楽は法会またはその他の大法のイベントの時に流したほうがよいと思います。これは大法の学習者が作ったものなので、これも大法の音楽です。気をつけてください。煉功のとき、やはり今までの音楽を使用します。なぜならば、この音楽は学習者に大きな影響を与えたからです。

弟子：それぞれの座禅の時間に大きな差異がありますが、圓滿成就の後、それによって違いが生じるのでしょうか？

師：ありません。いくら高い次元まで修煉しても、圓滿成就した後の体は人間のこの空間、時間及びこの空間の全ての要素に制約される体ではなくなります。そのときの身体は座禅の時如何なる影響もなく、座っていても横になっても非常に自在なのです。

弟子：修煉の時間に限りがあるので、多くの学習者は時間が足りないのではないかと心配しています。

師：この考えは正しくありません。これも一種の執着です。切迫感があってもいいのです。それは、あなたが一日も早く向上し、できるだけ早く圓滿成就することの原動力となります。もしこれらのことに執着していれば、きっと障碍になります。かえって、あなたの向上と修煉に影響します。ですから、何も考えないで、ひたすら修煉してください。修煉さえすれば、あなたはきっと圓滿成就に向かっています。肝心な時に乗り越えることができれば、あなたはきっと圓滿成就を手に入れます。皆さん誰でも修煉の中で心を刺激する出来事とぶつかり、しかも時にとても激しく反映されてきます。また、あなたの周りや体に直接現れない出来事もあります。あなたは何かの出来事とぶつかり、または他の人が何かの出来事とぶつかり、或いは他の人に悪口を言われ、何かのトラブルに見舞われることもあります。これらの出来事は皆、あなたが大法を学ぶかどうか、この法を修煉し続けるかどうか、あなたがどのように選択するのかを試しています。誰でもこのようなことにぶつかります。

これらのこととぶつかったら、つまりあなたを試練しているのであって、あなたが修煉し続けるかどうか、意を固めて大法の中で修煉できるかどうかを見ています。これは極めて重要なことです。皆さんがはっきりと分かっているなければならないのは、修煉の過程で随時に皆さんに圓滿成就することができるかどうかの試練を一度与えます。大法に対して確固としていないがゆえに、それを乗り越えることができなかつたかもしれません。または、大法に対する堅い決意があるから、それを乗り越え、確固として乗り越えたかもしれません。乗り越えても乗り越えられなくても、その出来事が起きた後、それが非常に普通の出来事だと感じます。しかし、その出来事が起きた当時、それが普通だとは感じませんが、それはあなたという人が圓滿成就に向うことができるかどうかを試しています。これは極めて重要なことです。実は、幾らかの執着心を取り除くのは非常に簡単です。一旦その人が圓滿成就することができると定められたら、残った執着心はゆっくり取り除けばよいのです。ですから、先ほど皆さんに教えたが、修煉という道のりで皆さんはこのような出来事に遭うことがあります。正しく判断することができるかどうか、それを乗り越えられるかどうかは全部

皆さん自身にかかっています。異なる劫難の中、誰かがあなたの心を刺激し、あなたを動揺させる時、あなたはきっと普段のように冷静にその問題に対処しないのです。その時こそ、最も人を試す時です。

弟子：煉功音楽に外国語の同時通訳を吹き込み、先生の声も残しますが、これはよろしいでしょうか？

師：いいですが、同時通訳を吹き込まないほうがもっと良いのです。吹き込んでも間違いではありません。新しい学習者に役立つかもしれません。しかし、説法のテープには通訳を吹き込むべきです。このことは既に行っています。しかし、私の声が残らなければなりません。ご存知のように、私の声はただ単に一つの声ではないので、私の声があり、同時に同時通訳の声もあるというようにしなければなりません。こうすることによって、皆さんは法を聞き法を得る過程で、中国人の学習者が私の話している中国語を聞くのと同じ効果になります。

弟子：玄関設位まで修煉したら、天目はまだ開いているのでしょうか？

師：開いている人もいれば、そうではない人もいます。人によって違い、人の異なる状況によって決めます。執着してはいけません。先ほどの白人の学習者の発表を皆さんも聞きましたが、彼は「私は何も見えませんが、この大法を堅く信じているだけです」と言いました。この人の修煉がどうなっているかはともかく、この話そのものは本当に素晴らしいのです。(拍手) 悟りによって圓滿成就します。それは本当に素晴らしいことです。もちろん、天目の見える人が素晴らしくないと言っているのではありません。それぞれ自分の修煉状態があります。見えるべき人なら、見させますが、そうではない人にはきっと見させません。見えるようになりたいと思っている人がいますが、この考え自体は執着です。この執着がある限り、見させません。一部の人は法の中で悟ることによって、はじめて元の位置に戻ることができますが、どうしても見たいと思っています。あなたの圓滿成就とあなたの将来のためにも、見させませんが、これはあなたのために考えているからです。

修煉者として、あなたに与える全ての按排は皆、あなたのためになるようにすることです。決して師父である私のためにはどうこうすることではなく、あなたの圓滿成就のためなのです。(拍手) ですから、その執着心を取り除き、少しわずかでも残さずに全部取り除くよう期待しています。求めずとも自ずから得ることです。それが欲しいと思う時に既に執着となりました。常人の中で求められていることを全部放棄す

ることができ、皆さんが得ようとしているのは常人には得られない更に素晴らしいものです。常人のものを皆さんは放棄しているのに、なぜ見えることを求めているのでしょうか？ それを求める目的は常人の中でそれを使うことではありませんか？ はっきり言って、まだ常人のことに執着しているのではありませんか？ もちろん、「修煉の中で天目が見えたら、何と素晴らしいことでしょう」とあなたはきっとそう思います。その「素晴らしいこと」の背後に執着があるかもしれず、そこに他の原因があり、表面に現れてきたものほど簡単ではありません。私が皆さんに対して真に責任を持つならば、皆さんに最も深く隠れている心からその執着を取り除くのです。

弟子：私はヨーロッパから来ましたが、一種の難が私のジョギングを妨害しています。私のどこが間違ったのでしょうか？

師：多くの白人はジョギングやジムが好きで、またウォーキングが好きな人もいます。これは体を健康にすることができると思っています。この作用があるのでしょうか？ 表面の体においてちょっとした軽い病気を防御することができます。この防御ははっきり言って、正確に言えばつまり業力が表面に戻ってこないようにしており、業力がまだ他の空間に存在しています。一時的に表面の身体は病を防ぐことができ、これはつまり病に対する抵抗力です。しかし、修煉者であれば、今まで溜まっていた病の業力を全部掘り出し、それを外に押し出すことによって、本質からあなたを真に健康にしているかもしれませんか。あなたを業力がないようにし、きれいにし、清らかにしています。それで、一種のアンバランスが現れ、これが原因であなたにジョギングをさせないようにしているかもしれませんか。なぜならば、修煉は生命を真に健康にする唯一の手段だからです。あなたはジョギングを通じて自分を健康にしたいと思っていますが、実ははっきり言って、あなたはまだ大法を固く信じていません。大法よりジョギングのほうが身体を健康にすることができると思っています。またはあなたもそこまで深く考えてはいませんが、ただジョギングに慣れているだけです。この習慣は既に一種の自覚されていない執着を形成してしまったかもしれず、あなたにそれを取り除かせなければなりません。あなたはこの執着の心を取り除くことを難または障碍だと思っているかもしれませんが、なぜ逆の角度から考えず、それを執着を取り除くためのものであるとは思わないのでしょうか？ 朝または夜、ジョギングする時間を煉功に使えばもっとよいのではないのでしょうか？ 何かの問題にぶつかった時に自分にどんな問題があるかを考えることができれば、向上は最も速いものとなります。問題に遭った時、自らを考えれば、問題の所在を見出すこともできるかもしれませんか。

弟子：本を読む時にも、座禅の時の状態が現れるのでしょうか？ 例えば、身体の存

在に気づかず、頭だけが本を読んでいるという状態です。

師：現れる可能性があります。なぜならば、法なので、どんな状態をももたらすかも知れず、どんな状態をも現れるかもしれないからです。

弟子：心の中で弘法に参加することに抵抗がありますが、どうしたら良いのでしょうか？

師：つまり、弘法の仕事をあなたはしたくありません。それなら、その抵抗の根源を見てみるべきです。実は皆さんに教えますが、誰もが弘法に参加しなければならず、またはこのようにしなければならないということではありません。このような規定はありません。私はこのように皆さんに要求していません。しかし、学習者として、自分が法から受益し、とても素晴らしいと思ひ、この素晴らしいものを親族や友達、更に多くの人に教えることは大いなる善の行為です。これは自分の心からそうしたいのであって、自らそうしたいと思っているのです。もし自分がそうしなくては、無理にすることはありません。ですから、そうしたい気持ちがあるときにすれば良いのです。私たちは慈悲を重んじているので、皆他の人に良いものを与えようとしています。この世において、他の人にどんなものを与えても長く続くことはありません。お金を与えれば、すぐ使い果たされてしまいます。そうではありませんか？ 相手にいくら良い物を与えても、永遠に持ち続けることはありません。人間はこの世に来た時、何も持ってきておらず、去る時は土に埋もれ何でも爛れてしまいます。何も持っていくことができず、去る時も何も持っていきません。それでは、どのようなものなら永久に続くのでしょうか？ 人に法を与えることだけが永久に続くことができます。ですから、これは最も貴重なものです。逆に言えば、弘法をすることも最も神聖なことです。もちろん、全ての人必ずしもこのようにするとは限りません。無理にせず、やりたければやれば良いのであって、やりたくないのであればそれが間違いでもない、と私は言いたいのです。

弟子：白人に法を得させるために、『法輪功』を先に読ませるのか、それとも『転法輪』を先に読ませたほうが良いのでしょうか？

師：各自の状況に応じて行えばよいのです。統一したやり方もなく、規定もありません。『法輪功』を先に読ませたほうが彼らが理解できると思えば、そうしてよいのです。これらの学習者の根基がわりと良く、認識も比較的深まっていれば、直接『転法輪』を読ませてもよいのです。皆さんそれぞれの状況に従って行えばよいのです。

これはとても簡単なことです。何かの規定はありません。

弟子：師父が『佛性に漏れなし』の文章でおっしゃった「本性」と、『佛性』の中でおっしゃった「先天の善良な本性」との間はどういう関係なのでしょう？

師：両者の間には関係していると言えますが、関係していないとも言えます。なぜならば、あなたの本性はあなたの次元によって決められた境地の現れであり、つまり、あなたが所在している次元の境地の現れであり、またはあなたが先天的に持っている次元と境地における大法の基準の現れです。修煉の中で現れることがあり、或いは、修煉の中で絶えず向上し、異なる次元での更に高い認識が現した状態が絶えず現れます。これがあなたの本性です。しかし、私心のため自我のためという特性は、宇宙の長い歳月とともに、皆さんが徐々に汚染されたものです。宇宙天体全体が全部法からずれてしまったら、全てにこの現象が現れ、お互いに誰も気づかなくなります。例えば、人間が常人の奔流の中において、人類社会が既に相当恐ろしいところまで墮落したのに、中の生命はだれも感じ取れず、かえってこの全てが非常に素晴らしいと思っている、ということと同じ道理です。ですから、皆さんは修煉によって、異なる境地の次元に到達し、自分自身の本性を再び表すだけでなく、同時に異なる時期、異なる次元において歴史の長い歳月の中で、異なる境地の中で汚染されたものを取り除かなければならず、全部取り除かなければなりません。私が皆さんに与えたいのは、皆さんを天地開闢以来最も純粹で清らかな境地に到達させることです。（拍手）

弟子：第五式の功法をする時、三つの加持の動作をそれぞれ二十分ずつしますが、これで師父の号令と合わなくなりました。

師：煉功音楽テープの時間より長く煉功することができれば、つまり、煉功音楽が終わってもまだ煉功することができれば、続けて煉功すればよいのです。音楽を聴かなくても同じです。音楽を聴く目的は音楽でああなたの乱雑した考えを代替するためです。さもなければ、あなたは何でも考えてしまい、あれこれ考えてしまいます。この音楽は大法の音楽なので、その背後に大法の内涵と偉大な佛法があります。ですから、音楽を聴いていると、佛楽、佛の声を聞くのと同じようになります。この作用が働いています。もし入静することができ、やたらに何かを考えずにいられるのであれば、音楽を聴かなくても同じです。更に長く煉功することができれば、音楽を聴かなくてもよいのです。

弟子：入定と入静との間はどうのような関係なのでしょう？

師：入静というのは、静かになって何も考えないで煉功することです。入定というのは、定に入り、形や我をも忘れる状態になるということです。しかし、この時、自分が煉功しているということが分かっていなければなりません。形を忘れるというのは、体がなくなったかのように感じるということであり、我を忘れるというのは、煉功以外のことを何も思い出すことができないということです。これが非常に良い状態です。定に入ると言い、入定とも言います。

弟子：常人社会の状態に合わせ、このようにする時間が長くなれば、波に従ってしまう恐れがあります。

師：そうです。ですから、古い学習者であれ、新しい学習者であれ、煉功点で煉功し、法を勉強するようにと私は言いました。この環境はあなたをきれいに洗うことができ、常人に汚染された言動と観念を絶えず洗い流すことができます。

弟子：煉功の時、周りがとても静かなので、突然音がすると、いつも驚かされています。

師：大丈夫です。他の気功をしていると、驚かされてどこかが悪くなったり、気が頭に上って下りてこないとかいろいろ言うのですが、私たちにはこの問題は存在していません。しかも誰でもこのことに遭います。煉功すると、あなたを邪魔する音が聞こえてきます。遠くの車のクラクション、隣近所のざわざわとした声、ひいてはあなたの家から突然出てきた音などは皆あなたの邪魔をします。これは誰も免れることのできないことです。人間には業力があるので、それによって難に遭います。しかし、この現象は長くは続きません。多くの場合煉功の初期段階に現れてきます。しばらく修煉したら、この現象がなくなるはずですよ。

弟子：修煉の起源について、お話いただけませんか？

師：あなたが知りたいこのことは本当に大きいですね。今期の宇宙天体も最終的な宇宙天体ではないので、私が言っている宇宙の概念がどれほど大きいかわからないのです。皆さんが想像している宇宙の概念と私が皆さんに説いている宇宙の概念はいくら大きくても、やはり非常に小さな範囲に留まっています。ですから、修煉をさかのぼるのであれば、それは不可思議かつ想像もできないことであり、あなたにとって何の意義もなく、皆さんの修煉とも関係はありません。

弟子：先生が伝えているのは宇宙の法ですが、なぜ法輪世界は高次元にないのでしょうか？

師：なぜ法輪世界は高次元にないといけないのでしょうか？ 私は既に言いましたが、ここでもう一度言いますが、私がここに座っていれば、私は人間であり、私を人間と見なせばよいのです。私は皆さんと同じように、ご飯も食べるし寝ることもします。もちろん、全ての人がそれぞれの生命の源を持っているので、私も私の源があります。私がこのことを行った時の最後に留まった場所は法輪世界です。法輪世界以外に私が滞在したことのある、または創造した異なる更に高次元の世界もあります。このことを気にせず、こういうことに頭を使わないでください。

弟子：とても高い次元の神は人間の体を持っていませんが、そこの神には佛と道の区別があるのでしょうか？

師：私はある経文の中で宇宙がとてつもなく広いと書いたのを覚えています。現在の佛の概念は皆さんの今までの佛に対する認識であり、それは非常に小さなものです。実は佛の概念はとても大きいのです。しかし、それほど大きくても、宇宙のとてつもなく広い範囲を超えてはいません。道の概念も巨大な宇宙を覆いきれないのです。つまり、佛道はある程度の次元からなくなったということです。私が選択したのは佛の形象であり、以前私は体の形を持っていませんでした。このことは既に高いレベルの話をしています。以前皆さんに教えたことがあります。私が佛の形象を選んだのであって、私が佛家の基点に立って宇宙大法を伝えているのです。実は私は全ての形象を備えています。本を多く読んでいけば、このことが分かるはずですが、以前私は既にこのことについて説きました。

弟子：私たちは師父の弟子であり、修煉して成就したら最も最も高い次元の上に更に師父がいるということを知ることができるのでしょうか？

師：知っている人がいますが、そういうことに過ぎません。そうでない人もいます。上の次元の全てはあなたの前に展開することがなく、あなたは何も知ることができません。ですから、あなたの概念の中で上に何もなく、あなたより下の次元を見ると、一目瞭然で何でも目に納めることができますが、あなたより上の次元に何もないということです。その境地に現れた状態はあなたが今理解できることではありません。上の次元にも法理があり、私が皆さんに高い次元の理を説いているにもかかわらず、私

はただ人間の言葉で説いているだけです。その時になったら、皆さんが知る法理、聞いた法理は決して私が現在皆さんに話している言葉ではありません。全ての観念に変化が生じ、上の全てはあなたにとって存在していないかのようです。更に高い次元があるかもしれず、少なくとも師父が上にいるのではないかと皆さんは考えますが、それだけです。ひいてはこれらのことまで薄れていくことさえあります。なぜならば、それがあなたの果位と次元によって決められたことだからです。自分の次元まで達したら、あなた以下の次元に対してあなたは全ての能力を持っていますが、あなたより上の次元に対して、如何なる能力も持っていません。

弟子：健康博覧会に必ず大法輪の図を掛けなければならないのでしょうか？

師：健康博覧会は学習者が大法に対する熱意から、多くの人々に法を得て欲しいから参加したのです。法輪の図を掛けるかどうかのことにいたっては、人間の観念で考えないでください。このようなことに対して、私は一貫してその時の事情を配慮して行うべきだと主張してきました。如何なることも行き過ぎないようにすべきです。なぜならば、私たちは常人社会の形式を利用して修煉しているため、最大限に常人に合わせて修煉すべきです。この言葉はあなたの修煉方式に現れるだけではなく、弘法、煉功とあなたの全ての行為にもこのことを現してから、始めてより多くの人に理解され、人々に法を得させることができるのです。あなたが宗教や迷信的なことをやっていると思われ、人々に理解されないということにならないようにしてください。人々が法を得ることを阻害する要素にならないでください。ですから、どんなことでも程よく行なうべきであり、この点において私たちは理性的にならなければなりません。

弟子：弟子が圓滿成就したら、また師父に会えるのでしょうか？

師：まだ圓滿成就もしていないのに、もう圓滿成就後のことを考えていますね。現在は一心に修煉すべきです。以前私は皆さんにこのことを話したことがあります。つまり、私は全ての境地と次元に現れることができ、私は上の次元から下の次元までの全ての体を備える形象を持っているということです。これは皆さんが理解できることではありません。人間の所に私が来たければ来られるのです。私は「蒼穹は無限に遠く、念を巡らせれば目の前にやってくる・・・」という詩を書いたことがあります。いくら大きくても、異なる次元の生命にとって、自分自身の次元以外の次元を超えることはあり得ないことであり、自分より下の次元を超える場合、時間の間隔があり、つまり時間がかかり、時間が必要なのです。しかし、師父にとって、如何なる時間の概念も私を阻むことができません。もちろん、これは皆さんが現在理解できることではあり

ません。

弟子：師尊は私たちを済度するためにどうして数回もこの世に転生なさったのでしょうか？

師：在席の人は全員が人間というわけではなく、同じ時期に地球に来た人間でもありません。もし私が一回しか転生しなければ、その後地球に来た人は私と縁が結ばれなくなりますが、どうしたらいいのでしょうか？ 多くの複雑な要素は皆このことを行なうための準備です。私は異なる国、異なる民族に転生したことがあり、私は幾世前にあなたの国の皇帝、国王、将軍、出家人、文人、勇士になったかもしれません。（拍手）冗談を言っていると思えばいいのですが、私は因縁関係を言っています。

弟子：海は佛の涙の一滴でできたものですが、なぜ佛の涙が私たちの空間に現れたのでしょうか？

師：天上の神が地球に落ちて人間になることができる、ということと同じです。これは理解できると思います。海水は佛の涙の一滴ですが、海水を再び天上に戻すなら、佛は決してそれを受け取らないのです。なぜならば、この海水は既に非常に汚くなったからです。つまり、海水は既にこの境地の物質になったからです。

弟子：私はまだ子どもですが、両親は私が修煉することを許してくれません。どのようにしたらいいのでしょうか？

師：もしあなたは既に物事の判断がつくのであれば、自分で決めるべきです。修煉するかどうかはあなた自身のことです。もしあなたが真に修煉したいのであれば、ご両親は大人を相手にするようにあなたに障碍をもたらすことはないと思います。肝心なのはあなた自身の決意が固まっているかどうかのことです。誰もが修煉を始めようとするれば魔難に遭い、妨害に遭うのです。昨日ある学習者が次のことを話しました。彼は法会に参加したいのですが、学校の門が閉まっていたので、学校に置いてあった住所メモを手に入れることができなくなりました。これが彼が遭った妨害です。誰もが法を得る時に妨害に遭いますが、この妨害が既に非常に小さくなって現れてきます。これほどの妨害も突破することができなければ、それはいけません。法は簡単に得られるものではありません。皆さんが今ここに座っていますが、この法のために皆さんがどれほどの代価を払ってやっとこの縁を促成したのか知れません。異なる歴史の時期に多くの紆余曲折を経験してやっと法を得たのです。中に皆さんが知っていること

もあれば、知らないこともあります。法に出会ったその瞬間、あなたはそれが非常に自然なことだと感じていますが、実は法を得られるその時間と場所を促成するには既に多くの紆余曲折を経てきました。それらのことをあなたは知らないのです。

弟子：北京のある学習者が作った大法を翻訳する時の中英文対訳の小冊子がありますが、どのように扱うべきなのでしょう？

師：この人は大法のために良いことをしたいのですが、この本は決して出版してはいけません。なぜならば、如何なる大法の言葉に対しても常人の定義を下してはいけません。ご存知のように、出版された全ての大法の本は皆私が説いた法であり、皆私が説いたのであって、出版された本は私が自ら整理したのです。私が整理したものや私の同意を得ていない本でなければ、勝手に出版してはいけません。このような本は私の説いたことではなく、大法のことではありません。誰も勝手に資料を整理してはいけません。以前私は既にこのことについて説きました。もちろん、学習者の目的は良いのですが、こういう小冊子を回収すべきです。

弟子：今期の人体は最も素晴らしいので、誰もが手に入れたいのですが、これは法を正すことの按排と関係あるのでしょうか？

師：今期の人体は最高なものではありません。ご存知のように、宇宙の中世紀の時の人体は最も素晴らしかったのです。今回の人類文明の中世紀を指しているのではありません。これは皆さんの概念の中に納められるようなものではないので、これらのことについて多く考えないでください。

弟子：私の考えは極めて悪いものに制御され、本を読んで法を勉強しても役立たないようです。師父はまだ私を済度するのでしょうか？

師：私は二つの方面から話します。もしあなたが私の最近の経文に書かれたような人で、以前私を師父としなかった、或いはあの経文に書かれたようにずっとこれらのものに制御され、専一でない人であれば、自分の主意識が強くならなければなりません。どんなことが起きても、動ぜず、それらのものがあちらこちらで動くかどうか、どこが痛いかどうかを気にせず、ひたすら法を学び、修め、決意が固まれば、全てが変わります。修煉者は体が優れないと感じていれば、このこと自体は良いことではありませんか？ もし修煉しなければ、あなたの体に宿っている良くないものを刺激することもあります。経文が既に出されましたが、これは皆さんに機会を与えています。

もしこれ以上自分を変えたくなければ、あなたはこの機会を失います。なぜ体はここまで変わったのでしょうか？ あなた自身がもたらしたのです。あなたはやはりこの状態から悟らなければなりません。「私が後悔したら、師父は何でもすぐ変えてくれる」と思うのであれば、これではいけません。これは修煉ではありません。

修煉は厳粛なことです。絶えず自分の心を固め、絶えず法を勉強し、認識している過程で、徐々に変わってきます。今まであなたは真に大法の中で修煉していませんでした。本を読んでいたが、本を読む目的はあなたの体を調整し、あなたが思っている魔難を排除するためです。私が大法を伝え出した目的は、人々を済度するためであり、人々を修煉させ圓滿成就させるためであって、人間の何かの難を解決したり、病気を治したり、人間が良くないと思っているものを除去するためではありません。ですから、あなたが本当に修煉したい、大法に対する心を固めることができる時になると、はじめてあなたの全ては変わります。これらのことのために大法を修煉しているのだと言うのであれば、あなたは何も得られません。なぜでしょうか？ 私たちは人間に慈悲がないのではなく、私が面倒を見ているのは学習者であり、修煉なのです。人間は自分で作った業を自分で返さなければなりません。

弟子：何が原因で異なる次元の宇宙生命は大法に対して、異なる反応をするのでしょうか？

師：これはあなたの修煉といささかの関係もなく、これらの天機を私もあなたに教えてはいけません。皆さんに教えますが、宇宙全体は長い年月の中でこの宇宙大法からずれてしまいましたが、皆ずれてしまったので、自分がずれてしまったと知る生命は一人もいません。正されてからやっと分かるようになるのです。人間と同じように、今日ここに座っている修煉者のようです。今振り返って常人を見れば、常人が悪くなったと分かりますが、修煉する前は全くそれに気づいていませんでした。このことと同じ道理です。異なる境地に異なる謎が存在しています。

弟子：今後の億万年の生命は時々刻々、内に向けて探すということをしつかり覚えなければならぬのでしょうか？

師：これは人間の修煉状態であり、神の状態と全く別のことです。修煉は生命にとって存在する目的ではなく、人間を元に昇らせるための方法に過ぎません。何故人間の考えで神のことを考えることができるのでしょうか？ まったく別々のことです。人間よ、私が皆さんの人間としての一面を大事しているのは、皆さんが修煉することが

できるからであって、人間そのものを大事にしているわけではありません。神にとって人間は汚いものであり、私にとっていえば、人間は宇宙の中のなくてはならない、最も低い次元に過ぎません。ですから、皆さんの考えはいつも人間のこのところに局限されており、人間の云々を考えています。人間の考えで神のことを考えるのであれば、まったく考えることができず、神に人間の考えがないということと同じ道理です。

弟子：なぜ不純な目的なことを抱く人が法を学んでも、病気が取り除かれ、健康が促進され、福を得ることができるのでしょうか？

師：これは大法の最も低い次元での現れだからです。宇宙大法は人間に修煉を提供するためのものではなく、異なる次元の生命に異なる次元の生存環境を切り開きました。人間という最も低い次元での状態、人間の生存環境の中で、法のこの次元での現れにあなたは接触しました。もちろん、人間は修煉しているわけではありません。人間は取りもなおさず人間だからです。人間にとって最も良い状態は病気がなく、健康で、福があるという状態です。あなたは法と接触しましたが、これしか得ることができません。

弟子：「大法が人類の前に現れる時、皆さんが失うのはこれだけではありません」と師父はおっしゃいました。

師：そうです。宇宙はどれほど歴大なのでしょう。異なる次元と境地にいる神でさえ、天の規則に違反したら打ち落とされるのです。長い年月の中で、悪くなったら神はその境地にいらなくなり、境地を下げられてしまいます。非常に悪くなった場合、人間の次元に打ち落とされます。人間にも及ばなくなった場合、人間にもなれず、ひいては消滅されてしまいますが、人間はなおさらです。つまり、皆さんが失うのはこれだけではない、という意味です。法のこの世での現れは、現在皆さんが修煉していることとして現れているだけであって、その威力を表わすことにまだ至っていません。本当にこの世で現れるのは、この世の法を正すことです。その時になると、それぞれの悪い人が淘汰されるという問題がやってきます。どこに淘汰されるのかのことは、その人がいるべき場所によって決められます。

弟子：修煉には終わりがあるので、もし終わりになっても、まだ圓滿成就まで修煉していなければ・・・。

師：そこまで考えてどうしますか？ 考えていれば即ち執着であると私は再三に強調

してきました。それを放下し考えないでください。あなたに与えた修煉の時間はきつと十分に間に合います。しかし、時間を大事にしなければいけません。ゆっくり修煉していれば、時間が足りるのでしょうか？ 足りません。法は厳粛なものだからです。

弟子：修煉者の血はとても貴重なものなのに、どうして蚊に吸わせてもいいのでしょうか？

師：修煉の中で、あなた自身の業力が外に放出している時、その血がどれほど汚いのかをご存知でしょうか？ 蚊が吸ったのは全て汚いものであるかをご存知でしょうか？ もちろん、私たちは修煉しており、体がますます健康になり、ますます常人より良くなっていますが、次のような場合もあり得ます。つまり、あの蚊の前世があなたに殺された生命であるかもしれないので、あなたは蚊に償わなければならないのではありませんか？ しかし、これであっても、蚊が吸ったのは決して貴重なものではありません。いつも自分が損したのではないかとばかり考えないでください。自分が作った業力をどのように返すのかをなぜ考えないのでしょうか？ 前世多くの人を殺し、多くの悪事を働いた人が今日修煉しようと思ったら、蚊まであなたを刺してはならず、何もなくてここから去って行こうとするのでしょうか？ これはあり得ないことです。もしあなたが修煉のとても良くできている人、または業力の少ない人であれば、蚊はあなたの近くに寄ってきません。蚊は周りの人を刺しても、あなたを刺しません。あなたの体に黒い業力がなければ、蚊はこのような陽性の強い環境に恐れて入ってきません。陰性の環境があるから、蚊はやってきました。その環境が蚊に合って、蚊がその環境を好きになって、あなたの血が蚊の基準に合ったから、蚊はあなたの血を好んで吸いに来ます。あなたの血が清らかであれば、蚊はかえってそれが良くないと思います。この道理ではありませんか？

弟子：他の空間の物質が皆実在しているものなのに、どうして心に従って変化するという問題があるのでしょうか？

師：そうですね。一途に思い込まないでください。私は人間の考えが物質であると話したことがあります。あなたが考えたことはその通りになることができます。あなたが言った話、言ったことは皆形のあるものです。ただあなたに見えないだけで、全てが物質です。人間の目から見る物質と神の目から見る物質は異なっています。人間が見た物質の存在形式は真実ではなく、物質は動かないものでもありません。これが宇宙存在の真実の現われです。人間の考えがあまりにも悪くなったので、考えたのは皆邪で悪く善ではないことであり、求める心や私心、情のことなどなどです。ですから、

人間が考えたのは皆虚像です。あなたはいつも一つの方向から一途に思い込んでいます。なぜ佛の智慧が大きいのでしょうか？ 佛の考えはあなたの考えと違って、佛の容量は大きく、一つの方面から物事を考えているのではありません。

弟子：私は西洋の学習者です。『転法輪』の中で「愛」が地位を失ったかのように感じています。

師：あなたに教えますが、イエス、聖母マリアとエホバが言った愛は人間が理解している愛のことではなく、慈悲のことです。現在の人類は西洋の言葉の中に「慈悲」という二文字がないので、「愛」という文字で神が言ったことを代替しました。この愛は神にとって汚いもので、慈悲こそ神聖なものです。愛のために、人間は性欲に溺れ、罪悪の性の乱れに溺れています。また、愛のために人間は多くの良くないこと、神に許されないことをやっています。愛の中に、人類が素晴らしいと思っているお互いに助け合うということがあると同時に、良くない負の一面もあります。それに対し、慈悲は完全に良いものです。ですから、以前西洋の神が言った愛は、私がもう一回皆さんにはっきりと教えますが、それは「慈悲」と言い、この世にいる人間が言っている愛ではありません。これは西洋の文化に慈悲という概念がないからです。西洋の古代の人間は神が言ったことを「愛」という言葉で書き残しただけです。

弟子：西洋の人にとって、憑き物が非常に奇怪で分かりにくいもののようにです。どのように西洋の人に「憑き物」を説明するのでしょうか？

師：西洋社会にも六道輪廻が存在しており、人間にとってこれは避けられないことです。ただ、イエスが地獄だけを説きましたが、輪廻を説きませんでした。イエスは人間に罪があると説きましたが、人間に業力があるから罪があったということを説きませんでした。これは人類の文化の違いによるものです。憑き物のことは西洋の文化にないわけではありません。『新約全書』の中にイエスが人間に取り付いた鬼を払うということを書いてあるのを覚えていますか？ 『聖書』の中に記載があります。それらの鬼は「これはあなたイエスと関係ないことで、あなたと何の関係もない」と言いましたが、イエスはそれでもその鬼を消滅しました。このことから、あなたは自国の文化に対してそれほど詳しくないようですね。

弟子：「殴られてもやり返さず、罵られても言い返さない」というようにすべきですが、その時、「あなたたちのやり方が正しくない」と相手に言っても良いのでしょうか？

師：「殴られてもやり返さず、罵られても言い返さない」、これは修煉者としての行いに対する最も適切な表現です。相手があなたを殴ったり罵ったりしたのは、いざこぎのためであり、つまりトラブルがあるからです。「私を殴るべきではない」と相手に言ったら、余計叩かれるかもしれません。相手と是非を争うと、彼とのトラブルの中に陥ってしまいます。その人を相手にしなければ、トラブルも終わってしまいます。ですから、「殴られてもやり返さず、罵られても言い返さない」というのは最も適切なやり方です。(拍手) これをやり遂げた学習者がいますが、私に言わせると、この学習者の修煉はとてもよくできており、本当に素晴らしいのです。殴られたら、やり返さず、罵られたら、言い返すべきではないと知っていますが、心の中でどうしても気になっており、「私を殴るべきではない」とやはり言うってしまう学習者がいます。これはやはりあなたが心の中で気になってしまい、借りを返したくなく、返しても心の中で納得していないからです。どうしても一言を言って自分を慰めています。私の話には弁証法的な関係がありますが、私の白人学習者または黒人学習者に聞いてみたいのです。私がこのように話して皆さん分かるでしょうか？(拍手) 良かったです。ありがとうございました。

弟子：私は哲学と文学を教える者です。哲学と文学は常人社会に有益であると思っています。

師：皆さんに教えますが、私たちが最大限に常人社会に合わせて修煉しているので、すべき仕事をやはりしてください。皆さんは間違っていない。あなたの仕事と修煉は別々になっているのです。ただ、あなたの修煉の中での心性はあなたの仕事に表わされることがあります。誰もがあなたを良いと言い、大法を修煉する人は本当に良いと言います。あなたの表れは本当に良いからです。将来その仕事はどのような位置になるのかのこのことについて、全宇宙は法から離れ、大法の他に人類社会に浄土がまだあるのでしょうか？ どこにまだ浄いところがあるのでしょうか？ 将来のことを私は言いたくありませんが、どうせ人類社会の全てが悪くなりました。人間だけではなく、未来において良くなることのできないものは淘汰されるかもしれません。現在、自分の行なっている仕事を構わずに行なってください。なぜならば、法はまだ人類まで正しておらず、現在法は皆さんを済度しているだけです。

弟子：家庭の環境がずっと良くありません。そのため、両親が大法に対して不敬な態度を取っていますが、これは私が業を作っているのでしょうか？

師：このように見てはいけません。二つの角度からこれを見るべきです。一つは、自分に業力があるから引き起こされたことであるかもしれません。もう一つは、自分の修煉に取り除かれていない執着心があるから引き起こされたことであるかもしれません。二つの原因がありますが、人によっては大法を理解していないから異なる状態が現れたということもあるかもしれません。

弟子：「六道輪廻」を信じないキリスト教徒がいます。

師：悪事をしたら地獄に落ちるとイエスは言ったのではありませんか？ 私は皆さんに次のことを教えるしかありません。『新約全書』と『旧約全書』を読んだ人がいますが、特に『新約全書』は誰それによって記録されたもので、一段落ずつ記録されたのです。この記録は思い出しながら行なわれたのです。つまり、イエスの話を聞いた人は彼の話の思い出しながら記録しました。しかし、皆さん考えてみてください、イエスが一生の間言った話は一冊の本にある内容しかなかったのでしょうか？ それほど少なかったのでしょうか？ イエスは多くのこと、多くのことを話しましたが、多くの話は人々に忘れられ、記録されませんでした。なぜ記録されなかったのでしょうか？ 他の原因から言えば、人間はそれほど知る資格がなかったからです。

如来の次元で説かれた佛法も全部人間に知られてはいけません。釈迦牟尼がこの世で説いたのは羅漢法であり、人間もこの程度しか知ることができません。イエスの言ったことに従って行なえば、イエスの言った話は人間を天国に行かせることが十分でき、もう十分です。ですから、神はイエスの話をそれほど多く残しませんでした。東洋の経書は非常に多いのですが、それも断片的で完全にそろっていない回想による記録です。これは間違いのないことです。他の方面から言えば、東洋人から転生してきた白人がいますが、もし西洋にいる時六道輪廻がなければ、東洋人に転生した時に輪廻転生する可能性がないのでしょうか？ しかも、西洋人と東洋人の多くは往復して転生しており、つまりお互いの間を転生しています。東洋文化に対して親しみを持つ人もいれば、西洋文化に対して親しみを持つ人もいます。これはその人が異なる時期で転生した時に残った痕跡によってもたらされたことです。しかし、今自分が白人であったり、黄色人種や黒人であったりしますが、あなたがどの人種の人なのか分かりません。

弟子：年寄りには視力が良くないので、いつもテープを聞いています。これは大法を読むのと同じ効果を得られるのでしょうか？

師：同じです。本当に心から法を勉強すれば、目に変化が現れるかもしれません。聞くことと読むことは皆同じです。年が上だとか下だとかのことにこだわらないでください。これもあなたの執着と障碍です。大法に年寄りと若者の区別はなく、ただ修煉すればいいのです。当時私が北京で法を伝えていた時、学習者は私のことを大師と呼んでいました。そして、会場から七、八十歳くらいの人からメモを渡されました。「あなたはなぜ大師と呼ばれているのですか？ 私はもうこの年なのにまだ大師と呼ばれていません」（笑い）。私は彼にこう説明しました。私は自分のことを大師と思いません。皆さんが私を尊敬しているから、大師という言葉を考えだしてそう呼んだのです。実は私のことを何と呼んでも構いません。名前や、先生、さん付けで呼んでも何でも良いのです。私はこれらのことを大事に思っておらず、私は如何なる形式をも重んじていません。実ははっきり言うと、人間が言う年寄りと若者は修煉者に当てはまらないのです。その人の元神が何歳であるか分からないからです。元神が本当のあなたです。この考え方を取ると、宇宙の中で私の年が最も上であり、皆さんの中に私より年上の人はいません。（拍手）

弟子：「論語」の中に『転法輪』の全部の内容が含まれていますが、なぜ「論語」と名付けたのでしょうか？

師：孔子が「論語」を書いたと皆さんはご存知ですが、その概念と内容は全く違います。私は佛法を人間の言葉で論じているため、「論語」と名づけました。（拍手）他にもなくこの概念です。人間の言葉は法に使われており、人間の言葉をどのように使っても良いのです。物事を説明し、皆さんを済度し、法を説明することさえできれば、私はこのように人間の言葉を使います。ですから、私は現代の規範された言葉と語彙に制限されていません。

弟子：ガンを治療する病院で仕事する大法弟子は病院で弘法しようとしていますが、これは大丈夫でしょうか？

師：その大法弟子の出発点は何であるかを見るべきです。例えば、大法をもって病気治療をしたいとか。大法は全ての正しくない状態を正すことができます。人間が病気にかかるのは正しいことではありませんが、大法は人間の正しくない状態を正すためのものではありません。大法が人間に伝えられたのは、人を済度するためであり、宇宙の中で異なる生命のために異なる生存環境を切り開いた偉大な天法です。（拍手）大法をもって人間の病気を治療したいのであれば、この心は正しくありません。そうではありませんか？ 大法がガンを治すことができるから、病院に行ってガンを治し

に行きます。これは人を済度するのではなく、大法をもって病気治療するのならば、これはいけません。

私たちに慈悲がないのではありません。皆さんにお話しましたが、イエス、聖母マリア、またイエスと聖母マリアよりも能力のあるエホバや、東洋人が信仰する宗教の中の佛陀は手を振るだけで、小さな小さな地球に病気をする人が一人もいなくなります。神はどうして慈悲をもって人間のためにこのことをしないのでしょうか？ 人間は自分で悪事を働いているからです。今日病気を直してあげたら、明日また悪事を働きます。もちろん、人間を懲罰するためではなく、宇宙の理は全ての生命を量っています。人間自身が悪事を働いたから、自分で償わなければなりません。あなたが人を殺し、佛があなたの業を消したら、あなたは思うがままに人を殺しても良いのでしょうか？ 人を殺したら、業力がやってきますが、佛がすぐあなたの病気を消してあげるのならば、これはやって良いのでしょうか？ 人間は悪事を働いたら、自分で償い、それに対して責任を持たなければなりません。往々にして、人間が悪事を働いたら、体での最大の表れは病気として現れてきます。病気をもって人間を懲罰するのです。これは私が言っているだけではなく、イエスも人間に罪があると言いました。人間になぜ罪があるのでしょうか？ 人間の体に業力があるからです。西洋文化に業力という言葉はなく、この表現はありません。ですからイエスは「罪」という言葉で概括的に説明しました。実は業力があれば、即ち罪があるということではありませんか？ 罪がなければ、どうして業力があり得るのでしょうか？ これは同じ道理です。

弟子：圓滿成就して各次元に行ったら、私たちの体に師父が授けてくださった印があるのでしょうか？

師：修煉して既に圓滿成就したら印を授けるということはなくなります。人間が迷いの中で、ここに落ちたから印を授けたのです。圓滿成就したら、あなたは完全に独立した個体になり、自分の意思で全てを決める偉大な神になります。私が皆さんに与えたのは束縛ではなく、私が皆さんに与えるのは偉大な神なのです。（拍手）

弟子：法輪大法を学んでいない人は「普度」、「済世」の音楽が好きですが、彼らに聞かせても良いのでしょうか？

師：大丈夫です。音楽だから、もちろん私たち大法の音楽を聞いたら、必ずメリットがあります。

弟子：現在の男女平等という社会観念がとても強いので、女性の弟子として、どのようにしたら、柔でありながら、勇猛邁進することができるのでしょうか？

師：現在の人間は女性がますます解放され、個性がますます強くなっていると言っていますが、実は皆さんは善の一面に左右されているわけではありません。強さは人間の外見に現れるのではないと私は思います。普段やさしく、本当の女性らしくしていれば、あなたの能力によって得るべき全てを得ることができます。陽で剛になり、男性のように振舞ってはじめて得るべきことを得るということではありません。私が言ったこの道理を皆さんは分かりますか？（拍手）つまり、皆さんは女性なので、必ず女性のように、善良でやさしくなってはじめて、男性からの尊敬と愛を得ることができます。もし善良でやさしくなければ、男性が皆さんを見て恐れてしまうので、（笑い）皆さんは得るべき愛と家庭の温かさを得ることができません。逆の角度から言えば、女性のことばかりせめてもいけません。男性の皆さんも男性のようになるべきです。しかし、地球上の現在の社会が皆悪くなったため、私は私の弟子にこのようにすることを要求するしかありません。これは社会においてできないことです。五十年代以前の西洋社会のことですが、その時の男性はとても紳士的で、女性を尊敬していました。女性が女性らしかったので、男性は好んで女性を助け、尊敬し、やさしく見守っていました。女性も女性のように夫を大事にしていました。それが人間の行為です。しかし、今日皆さんはこれを変異してしまいました。

東洋社会では、女性が必要以上に強くなっているため、男性を女性のようにしてしまいました。皆さんに教えますが、皆さんは骨身から夫が強くなることを望んでいますが、実は内心で夫の上に立つことを願っています。これは矛盾しているではありませんか？ 社会の形式が全部このようになったら、男性は頭を上げることができるのでしょうか？ 胸を張ることができるのでしょうか？ 一人前の男性となりえるのでしょうか？ 一つの家庭に二人の世帯主があってはならず、一つの山に二人の王があてはいけません。ですから、二匹のトラが戦うと、必ず片方が負傷してしまい、（笑い）家庭はきっと睦まじくなりません。二人の大王が同じ屋根の下にいれば、大変なことになるではありませんか？ 世帯主がなくてはならないので、家庭離婚になり、不仲になったりします。皆さんはいつも次のように言っています。男性は女性が女性らしくないとありますが、女性は男性が男性らしくないと言っています。

西洋社会では、もったきっぱりとしています。結婚の時既に財産の配分を決めて、将来離婚したらこれは私のもの、あれはあなたのものと決めてしまいます。とてもさっぱりしています。女性は男性の嫁になったらこの男性を頼りにしようという考えは

全くありません。男性は、この女性が一旦自分の嫁になったら、既にこの一生を自分に託し、彼女に責任を持たなければならないという心も全くなくなりました。個人の利益と自由は何よりも大事です。それでは、皆さんはどこで家庭の温かみを手に入れることができるのでしょうか？ お互いに強がり争い、誰も相手のことを認めません。皆さんに教えますが、これは人間としての状態ではありません！（拍手） 夫婦の間もお互いのことを信用せず、安全と感じられるところ、暖かさと落ち着きを感じられる場所もうありません。このように生きて苦しく感じないのでしょうか？ このようになってはいけないと皆さんも心の中で思っています。暖かさと落ち着きを感じる場所を持つべきであると思っています。しかし、皆さんの表面はこの全てを破壊しており、利己的な個性を強調し、このような場所の存在を拒んだのです。皆このように行ったら、美しい人間関係も失ってしまいます。もちろん、私は弟子、皆さんだけにこのように教え、これらの間違ったことを教えることができます。人類は既に救いようがなく、自分自身の全てを挽回することができなくなりました。現在の社会の世論と全ての宣伝媒体は皆個の自由を話しており、個性を放任しています。皆さんに教えますが、この放任された個性によってあなたが自由になったように見えますが、実はあなたは永遠に暖かい幸せを得ることができなくなりました。あなたは永遠に信頼できる人を持つことができなくなりました！（拍手）

弟子：修煉して佛の世界で庶民になる大法弟子がいるのでしょうか？（笑い）

師：笑わないでください。これも概念的な問題です。修煉している人は果位があるので、決して百姓になることはありません。圓滿成就したら、皆果位を持つのです。

弟子：大法は表面の私を変えるだけでなく、異なる次元と空間にいる私をも変えることができます。この理解は正しいのでしょうか？

師：理解そのものは間違っていないです。人間としての体がなければ、修煉することができず、向上することもできないため、他の空間の体がどのように変わるのかと私は以前話したことがあります。修煉はこの人体がなくてはならないのです。ですから、必ず人間のこの部分が修煉してはじめて、変わることができるようになります。時には、大法の本を読んでおり、集中していない時、口で読んでいますが、考えがここにありません。これはあなたの副意識または他の方面が作用しているからです。あなたの考えがたまに現れてきますが、また消えてしまいます。この問題がいつも現れたら、この全てを放棄することになり、この法を他の人に与えてしまうことになります。これはいけません。私もこのように修煉することを許しません。

弟子：愛と執着との違いをどのように理解するのでしょうか？

師：これは別々の概念です。愛は執着を生み出すことができ、愛ということ自体は修煉の中で執着を作り出すことができます。しかし、常人の中で、社会の中で、愛は人間にとってなくてはならない要素です。人間に愛がなくなれば、人間は今まで以上に悪事を働き、魔性が更により強くなります。ですから、人間は愛と情を失ってははいけません。情は人間に属するものであり、人間に与えた生存環境の中の必須な要素ですが、神に与えるものではありません。修煉者として、皆さんはこの中から抜け出し、愛と情によって生じた執着を修煉によって捨て去らなければならないのです。つまり、こういう関係です。愛しながら執着しないということはあり得ません。しかし、修煉の過程ですぐに何に対しても淡泊に見て、何でも放下することができ、それほど執着しなくなることもあり得ません。ですから、現在のこの段階におけるあなたの状態のままになればいいのです。

自分で無理強いで行動しないでください。心の中で元々愛があり、家族を愛しているのに、無理やりに愛さないようにしたいと思っていれば、これは間違いです。なぜならば、あなたの境地が高まったのではなく、あなたは自分で人為的に行なっているからです。このようにしたら、かえって相手が大法を理解しなくなり、それによって大法のイメージを損なってしまいます。あなたの愛が修煉の中で消された時に、愛を代替して慈悲が現れてきます。ご存知のように、私がここに座っており、私が全ての人に対して皆さんの言葉で言うと、暖かく見守っていますが、実はこれは慈悲なのです。(拍手) これは皆さんのような個人的な感情とは全く違うものです。皆さん自分でさえ私の慈悲を皆さんの間にある愛と区別することができます。(拍手)

弟子：集団煉功の時、遅く来たり早く帰ったり、大きな音を立てたりする人がおり、他の人が入静するのを邪魔しています。このような人に注意を促すべきなのでしょうか？

師：このことに言及しましたので、私はあることを思い出しました。皆さんに教えませんが、文化大革命まで中国人は全世界でも有名な儀礼を重んじる民族でした。マナーや衛生と表面的なことにも非常にこだわっていました。中国周辺の国のマナーは皆中国人が伝えたのであって、中国から教わったのです。(拍手) しかしご存知でしょうか？ 文化大革命以降はマナーが古い風習として破られました。体中泥だらけになり、手にたこができることにこだわりはじめ、シラミを「革命の虫」としていました。

人々は汚れることを良いこととしました。この考えはずっと続いています。現在生活水準が高くなり、身だしなみにもこだわるようになりましたが、文革から残ったこの考えはまだ破られていません。ですから、皆さんが西洋社会に来て、西洋社会は皆さんのこの面のことに対して本当に見過ごしにくいのです。

皆さんは日常の些細なことにこだわらず、身だしなみを気にせず、汚い格好をし、周りの雰囲気と場所を構わずに大声でしゃべっており、衛生を気にしていません。もちろん、皆さんが最大限に常人に合わせて修煉すべきであると私は言いました。修煉している弟子として、皆さんはこれをやり遂げなければなりません。本来これはたいしたことのないことであり、私はこれを話すつもりもありません。しかしご存知でしょうか？ 皆さんの表れによって白人学習者は恐れてしまい、弘法活動に入ってこないのです。このことに皆さんは気をつけるべきです！ これはただ一つの行為の問題だけではなく、本当にこの方面のことに気をつけるべきです。私はおしゃれするようにと皆さんに教えているのではなく、皆さんは最も表面の人間の文明を知っておくべきです。皆さんに教えますが、実は大法の中に最も低い次元の内涵も含んでいます。如何なることをする時でも相手のことを思うことができれば、全てを良く行なうことができると思います。(拍手)

弟子：あることについて既に先生からご指示をいただいたと言っている学習者がいますが、その人のやり方や言動などが修煉者らしくありません。

師：多くの方は他人と言い合って対峙している時に、「これは先生が言った話だ」と私の言ったことを持ち出し、自分の執着のために弁護し、自分の取り除くべき心を隠すのです。これは非常に良くありません。しかし、逆から言えば、その人の言動に大法に合っていないものがあるから、彼が学習者ではなく、修煉が良くできていないとも言ってはいけません。実は彼は既に多くの心を取り除き、常人よりどれほど良くなったか知れません。まだ取り除かれていない心だけが現れてくることができます。あなたはそれを見て、相手が修煉者だから、受け入れることができません。ですから、表面の表れから人を量ってはいけません。先ほど私は当事者双方のことにも触れました。

弟子：古くからの学習者は顔色が黒くなり、しみが多く、体がとても細くなった人もいますが、これは正常な現象なのでしょうか？

師：修煉は複雑なのです。もしあなたがこれらのことを気にしていれば、あなたにこ

これらのことばかりを見せ、あなたが修煉を続けるかどうかを見るのです。逆から言うと、この人に本当にこの状態が現れたら、本人が本当に精進しているかどうかをも見なければなりません。本も読んでおり、功も練っていますが、実はどうなっているのでしょうか？ 本を読んでいても、一年余り経ってもまだ『転法輪』を読み終えていない人がおり、しかし、いつも本を読んでおり、功もまめに煉っており、しかも他の人にも勧めています。修煉は厳粛なことであり、この世の中に修煉より厳粛なことはありません。私たちは本当に着実に行なわなければなりません。

弟子：早朝の集団煉功に参加せず、風や日差し、冬の寒さと夏の暑さを経験しなければ、圓滿成就に影響するのでしょうか？

師：これらのことが原因になっているわけではありません。私は言ったのではありませんか？ 苦を嘗めることは執着の除去と向上のためです。単なる幾らかの苦を嘗めるだけで何かを表わしているわけではありません。大事なのは集団で修煉するという環境が人を精錬することができるということです。人間の最も表面なところがいつも接触しているのは常人社会の修煉していない人であり、私が言っているのは、あなたが彼らに影響されるのか、それとも大法の中で大法弟子に影響されるのかという道理です。

弟子：宇宙を創造したのは法なのか、それとも神なのでしょうか？ 神が宇宙を創造したのだとよく聞きますが、佛と道が宇宙を創造したことをあまり耳にしません。

師：あなたが聞いたその神は何によって造られたのでしょうか？ 法を多く勉強すべきです。しかし、この話で私はあることを思いつきました。西洋の宗教では彼らの神が世界を作ったのだと多くの人が聞いたかもしれませぬ。東洋の佛教は佛の業力で宇宙を作ったとも言っています。その業力の概念というのは何かをすればそれが業力になり、業によって結果がもたらされたということです。私たちは東洋の神話の中でまたは古来の伝説の中で、盤古が天地を切り開いたとも聞きました。ここで盤古が天地を切り開いたということについてお話します。物語からも聞いたかもしれませんが、盤古は最後身体を天、地、山、川、河と天上の星に化しました。どのように言ったとしても、皆さんに教えますが、異なる次元において、あなたがどの次元の神であっても、あなたは自分より上の次元のことを知ることはできません。今までの長い歲月の中でとくに法からはずれ、ひいては多くの生命は法を全く知らず、忘れてしまいました。なぜ忘れたのでしょうか？ 現在の今期の文明で生じた全ての生命は、その次元がいくら高くても、大体第九期に生じたのです。第九期以前の法がどういうものなのだったのかを人々は知らないのです。第九期になった時、法とは何かは更に分から

なくなりました。異なる次元に異なる基準が存在していることだけを知っています。つまり、その生命の原始生命がほぼなくなったため、宇宙の由来を知ることができなくなりました。

宇宙は異なる次元で劫難が起きた時、つまり異なる天体が解体するということが、皆さんの言葉で言うと爆発ということです。一旦爆発してしまうと、高い次元の神は下りてきて宇宙を創造していることを最も低い次元の神に見させることはありません。そのため、高い次元の神は自分より次元の低い神を造り、この神に次の次元の世界を作らせるのです。この次元で新しい神が誕生します。私は既にお話しましたが、異なる次元で生命を造ることができます。この次元で神が誕生したら、この神は天地を開闢し、この一層の宇宙を作る能力が備わっていなければなりません。更に高い宇宙に神がいるかどうかは、この神には全く分かりません。

先ほど私は実はある道理をお話しました。つまり、異なる次元の佛、道、神は自分自身がいる次元またはそれ以下の次元で宇宙の中の全てを創造することができます。しかし、これが彼の範囲内にあるので、彼は自分が世界を作ったと思っています。これは比較的原始的な神のことを言っています。ある神が更に大きな宇宙を作ったとしましょう。この造られた宇宙の中のある次元である時期に一人の神が誕生しました。この神が誕生したこの境地は長い歳月を経て、この境地の中の宇宙に問題が現れたため、更に高い次元の神によって解体され、爆発しました。爆発の後、この神が再び宇宙を建て直したため、自分が宇宙を再び建て直したと思いました。この宇宙の上に更に大きな宇宙があるとは知らないのです。彼より小さい次元の中にもこのようなことが現れるので、彼より更に小さな次元にも異なる次元で宇宙を作ることが現れます。先ほど話したことを分かったでしょうか？（拍手） 私は『転法輪』第五講の中でお話しましたが、異なる神が異なる特性の宇宙を造りました。皆さんの中の多くの方はこれに対して良く分からなかったのではありませんか？ これは私が先ほど言った状況です。宇宙はあまりに巨大であり、異なる次元に起きた変化は極めて広い天体の中の小さな粒子に過ぎず、神にとっても不可思議なことです。

弟子：古代ギリシャ神話の中の神々、または中国の神話の中の神々は人々の想像なのでしょうか？ それとも確かに存在していたのでしょうか？

師：皆さんに教えますが、現在の社会において人々は現有の科学に動かされ、ますます現実に入り込んでしまいました。しかし、この現実は一時的な現実であり、宇宙の本当の偉大な真相はますますこの偽の現実によって覆い隠されています。これは人間自身

が引き起こしたことであり、人間がますますこの表面を信じ込んでいるからです。多くの古来の神話は本当の話ですが、人間はそれを作り上げられた物語としています。私は今日宇宙大法を伝え出し、これによって引き起こされた全て及びこれから起きる全ては全ての生命を驚かしてしまうでしょう。将来更に凄まじいことが現れます。なぜならば、法がこの世に到来するからです。人間が信じていない全てが現れ、人々を呆然とさせてしまうのです。しかし、このことがいくら大きな反響を呼んだとしても、いくら長く続いたとしても、数千数万年後に、人間はこれを物語とするのです。時間が更に経つと、人間は今と同様に、これを人間が作り上げた話だと思ふのです。人間はこれほど能力が低いのです。イエスの出現を現在否定している人がいるのではありませんか？ イエスの出現を人間の作り話だと言っています。東洋の釈迦牟尼の出現を作り話としている人が今いるのではありませんか？

弟子：両親は佛を長年にわたって修めています。彼らは師父が最近お書きになった二篇の経文の中で言われたような人であり、どのように彼らに正法を修めてもらうことができるのでしょうか？

師：私が書いた経文を彼らに見せればいいのです。このようにするしかありません。誰も他人を代表することができません。私たちは善を勧めるしかできず、他人に押し付けてはならず、相手に押し付けてはいけません。何を得たいのかは本人自身のことです。無理強い何かをさせるのは認められず、本人自身が自分で修めることだけが認められるのです。

弟子：元々経済条件が良いのですが、わざわざ儉約して生活するのは執着なのでしょうか？

師：多分中国人は生活が苦しい時期があったので、貧乏に対して恐れてしまったのです。それによって、人々は必要以上に儉約するようになりました。度を過ぎると、良くありません。普通に生活すれば良いのです。儉約するのは悪いことではありませんが、どんなことでもやりすぎたら、良くありません。修煉者に何かの固定観念があるべきではありません。儉約するのは間違いではありません。

弟子：中国で修煉する時とヨーロッパへ出張する時は、同じ先生の法身によって守られているのでしょうか？

師：法身が同じかどうかは、これに区別があるのでしょうか？ あなたに教えますが、

皆さんは皆私の同じ智慧によって守られており、区別はありません。実は法身は即ち私であり、私の考えは即ち法身の考えです。

弟子：真体とは何でしょうか？ 功身とは何でしょうか？

師：これには区別があります。人間のこのところの全てが神から見れば真実ではなく、佛の体と神の体だけが真実のものなので、その次元の体または更に高い次元の体を真体と呼んでいます。功身は私が独自に持っているものであり、この宇宙の如何なる生命にもないものです。功身は私の歴大な功であり、同時に私の形象を構成することもできます。(拍手)

弟子：煉功の時、いつも先生が何かを話している声が聞こえます。

師：もし話しているのが法であり、本の中の内容であれば、大丈夫です。それはあなたの功能方式の現われであり、あなた自身の功能の現われです。法の中の内容でなければ、それは妨害です。

弟子：子どもに煉功を教え、良い人になるようにと話していますが、経の読み聞かせもしなければならないのでしょうか？

師：良い人になると教えていますが、それは常人の中の良い人になるに過ぎません。法だけが人々を元に向って昇華させることができます。この道理ではありませんか？五式の功法は子どもができる程度で良いのです。今それをすることができず、少し大きくなったらしたらどうかと言う人がいますが、これも問題はありません。

弟子：子どもに大法の法理を話す時に、子どもの分かる話で説明していますが、これはよろしいのでしょうか？

師：これは問題ないと思います。あなたは修煉者なので、間違っただけで説明することは無いと思います。あなたが道理をもって子どもに説明しているので、問題はないと思います。

弟子：関にぶつかったことがあります。私はその時志を失いました。再び修煉を始めたいと思っています。

師：「私はまだ修煉することができるのでしょうか」と先ほど私に聞いた学習者がいます。つまり、良く行なえなかったところがあり、弟子としての基準に達してないところがあるかもしれないということです。良くないことをしたら、まだ修煉することができるのでしょうか？ 修煉することができるかどうかはあなた次第です。あなたは既に法を聞き、法を得ました。もちろん、良く行なうことができず、その関を乗り越えることができず、損失は非常に大きかったのです。再び修煉を始めることができ、心を静め、思い切って再び始めればいいのです。既に大法の中で修煉するという決心をもっており、その時の事が間違이었다と分かったのに、なぜ思い切って再び修煉を始め、追い付いてこないのでしょうか？ このようにしたいと思っただけで、私に言わなくても、他の人にも言わなくてもいいのですが、ただ修煉を始めれば、私が思うにはもう十分です。実は皆さんの誰もが修煉を始めた時、修煉したいと思ったから法を得たのではありませんか？ しかし、機会を再三に失ってはならず、間違いを再三に犯してはいけません。修煉は厳粛なことです。これ以上間違うと、この法に入る機会がもうないかもしれません。既に法に入る機会を持っているのであれば、二度とこの機会を失わないでください。

弟子：多くの北米の弟子が結婚せずに同棲しています。中に子どもまでできた人がいます。彼らは婚姻届を出すべきではないのでしょうか？

師：そうすべきです。最大限に常人に合わせて修煉すべきだと私は皆さんに教えました。別の角度から言えば、中国の昔では結婚は天地の承認を得るべきだったので、結婚の時に天地を拝まなければなりません。親の承認を得るべきなので、親を拝まなければなりません。西洋社会では、彼らの主と神に認められなければならないので、教会に行って主に誓い、主または神はその結婚を証明し、二人が結ばれることを証明します。現代の西洋社会はこれを破壊し、何の形式も踏まず、二人が一緒になって、何の縛りもありません。楽しんでいけば一緒にいますが、良くなければ人を換えてしまいます。これではいけません。大法の学習者としてこの道理が分かるべきです。西洋社会の性の解放によって造られた業力は非常に重いのです。東洋から来た人は更にひどいのです。これらのことに気をつけるべきです。人間が悪くなりましたが、修煉者の行いは常人にも及ばないのであれば、これは問題ではありませんか？ もちろん、まだ手続きをしていませんが、気持ちと行動においては既に結婚したと同じで、子どももいるので、分かれることもできないと皆さんは心の中でそう思っているかもしれません。しかし、皆さんは手続きを踏んでいませんが、お互いに相手に責任を持つことができるというのは悪くありません。しかし、なぜ手続きを取らないのでしょうか？ 少なくとも常人社会に合法的な夫婦として認めてもらうべき

です。私が思うにはこのようにすべきではありませんか？ つまり、この問題において軽くなつてはいけないということです。このことについてはこのくらいにしましょう。以前どのように行ったのかに関わらず、過ぎた事を過ぎたことにしましょう。これから良く行なえばいいのです。

弟子：元神が体から離れて見た光景と功が開いて見た光景とどのように区別するのでしょうか？

師：これについて既にお話しました。「なぜ見えないのでしょうか」という経文の中で私は既にはっきりと述べました。なぜ見えないのでしょうか？ 即ち見えてもはっきりと見えることができません。つまり、あなたが見えるようになっても、それほどはっきりとした光景ではないということです。もしはっきりと見えたとしても、それも局部的なもので、神のように開いており、何でも知っており、何でも見え、映画を見ていると同じようになることはありません。もちろん、特別な人もいますが、私は普遍的なことを言っています。

弟子：大雪の中で法会に参加しに行きましたが、車が途中で壊れてしまいました。家族は私の冒険的な行動を理解することができません。

師：如何なることもそれほど簡単な公式ではなく、皆公式に基づいてやれば良いということではありません。修煉なので、それぞれが遭遇する状況はとても複雑であり、これが原因かも知れず、あれが原因かもしれませぬ。例えば、自分自身の心性を高めないので問題が出た人もおり、他にもっと重要なことがあるからかもしれませぬ。また、このような難に遭うべきなので、困難と阻害に遭いました。ですから、修煉は極めて複雑であり、皆さんが考えているように簡単なことではありません。車が壊れたことによって、数キロ先で遭う交通事故から免れたかもしれませぬ。この状況であるかもしれず、あの状況であるかもしれませぬ。修煉の中で皆さんが経験したことは皆良いことであり、自分の威徳を樹立することでもあります。

弟子：二日間の大法を紹介する勉強会しかありませんが、これは正しいのでしょうか？

師：二日間で大法を紹介する勉強会だったら、時間があまりに厳しいのです。『転法輪』を連続して読み終えなければ、この人は再び本を手にするのが難しくなります。なぜでしょうか？ 人間に思想業力があり、考えの中の観念によって業力が生じたの

です。本を読んでいる時はつまりあなたの考えにある業力を減しています。業力は生き物であり、あなたに減されているのを知っているため、この本と接触できないようにするのはです。あなたに時間があっても、この本を読みたいという思いを起させないのです。あなたに本を読む時間がないようにできるだけのことをします。ですから、これは一回目の時本を読み終えていなかった人がなぜ、その後続けて読むことができなくなったかの理由です。ビデオを見る時も同じです。もしあなたが通して見ることができなければ、見る時間を作ることができなくなります。これは魔があなたを妨害しており、あなたに時間がないようにし、再び大法と接触しないようにできるだけのことをしています。ですから、この問題が現れることがあります。しかし、皆さんに弘法をする時間があまりないので、自分の状況に従ってこのことに対処するようというしかありません。

弟子：長期的に他の修煉者の善意による援助を受けるのは、無限に徳を失っているのでしょうか？

師：例を挙げてお話しします。ある学習者は家庭の経済が急に厳しくなりました。修煉者にとって、この困難は以前作った借りを返すためのものであるかもしれません。以前の借りを返す過程の中で必ずこのように苦しみに耐えることがあります。時間は長く続きません。多分このようなことがあると思います。他の学習者は彼が苦しんでいるのを見て、助けてあげるべきだと思うようになりました。どのように助けるのでしょうか？ 皆お金を出し合って、お金を渡して、その家族の生活を支えていました。それで、この人はそれから何もしなくなり、法の勉強以外、家で食べたり飲んだりして、他の学習者からももらったお金を使っていました。更に続くと、法も勉強しなくなり、「お金を頂戴、私はこのように生活しますから」と言うようになりました。皆さん考えてみてください、皆さんは慈悲の心を持っていますが、このようにこれらのことに対処してはいけません。人それぞれに自分自身の難があり、他の人は慈悲からその人を助けたり、仕事を紹介してあげたり、または臨時的に何かの問題を解決してあげることができますが、決してこのように長期的に行なってはいけません。私がその人に按排した道は皆さんに破壊され、その人は修煉できなくなり、最後修煉をやめてしまいました。仕事も探さず、困難があっても解決せず、どうせ使えるお金があるから、毎月持ってきてくれれば良いのです。このようになってしまったら、学習者は一体何をやっているのでしょうか？

援助？ 援助とは何でしょうか？ 人に何かをあげるということです。知らない人はどうしてあなたにものをあげるのでしょうか？ 皆学習者でお互いに知っていま

す。しかし、学習者の間で高いものを簡単にあげたりすることができるのでしょうか？ それはなぜでしょうか？ 少なくともなぜこのようにするのかの理由があるべきです。もし高いものでなければ、なぜ長期的に絶えずあげるのでしょうか？ これはなぜでしょうか？ あなたはなぜこれを受け取るのでしょうか？ 食欲の心を放下できないのでしょうか？ それとも他の何かが原因になっているのでしょうか？ なぜ自分は原因を探さないのでしょうか？ これではいけません。私たちの大法はお金や物に触らず、お金や物を蓄えることもしません。皆さんが修煉しに来て、ここに座っていますが、私は皆さんから一円も取りません。なぜ他の人が何かをくれる時に、それを放下することができないのでしょうか？ ここで強調しておきますが、大法のために仕事をしている全ての人、または師父のために仕事をする人は、どんな理由があっても、決して学習者からの如何なる物品も受け取ってはいけません。言付けられ師父に渡すものなら、必ず師父によって対応されなければなりません。勝手に対応したり、または着服したり、手元に残したりしてはならず、師父宛の手紙や他のものを勝手に開けたりもしてはいけません。

弟子：生命の墮落は元神が何かのことに執着し始め、または元神が変質したから引き起こされたことなののでしょうか？

師：私はこのように問題を見ていません。人間の生命は一つの全体であり、あなたの元神、副元神またはあなたの体があればこれをしたという言い方をせず、間違ったら全部間違ったということになります。あなたの一念に異なる次元にいる全てのあなたが入っているからです。間違いを起こしたらそれを直せば良い人になります。自らを修めることができれば、向上に向かっていくことができます。

弟子：人体という小宇宙の中にいる衆生の生命とこの人体を主宰する元神とは同じ次元にいるのでしょうか？

師：同じ次元にいません。皆さんは自分自身の体にいる全ての生命より次元が高いのであって、皆さん自身の全ての細胞に考えを統一する支配体系が存在しています。

弟子：私は今年十三歳ですが、日本に生まれました。言葉が通じないので、どのように修煉するのが全然分かりません。

師：大人は何かの方法を考えてこれを解決してあげてください。日本で生まれたので、中国語が分かりません。まだ子どもなので、日本語で書かれたものを全部理解するこ

ともできず、字を全部読めるわけでもありません。困難があるかもしれません。分からないところがあれば大人に聞けば良いのです。徐々に分かるようになります。子どもは賢いからです。ご存知のように、中国で全く学校に行ったことのないお年寄りがいます。『転法輪』を読んでいます、何度も読んでいるうちに、全部読めるようになりました。このような人は大法弟子の中で既に相当います。数十年、人生の大半も過ぎましたが、字が読めるなど考えたこともありません。大法を勉強することを通じて、極めて短い間に『転法輪』を全部読めるようになり、しかもすらすらと読むことができました。本当に奇跡なのです！ なんとと言っても法なので、このようなことが現れます。もちろん、大人のような根気は子供にはないかもしれません。しかし、私もこのことを配慮するのです。子供はなんとと言っても子供ですが、努力すれば、その上大人による助けがあれば、解決されると思います。

弟子：副元神との間にどのような因縁関係があるのでしょうか？

師：因縁関係があるかも知れず、ないかもしれません。公式がないからです。人それぞれに異なる生々世々での状況があるので、これらは人間の因縁であり、あなたの修煉と関係はありません。主元神がここではっきり分かった状態下で法を得ていれば十分です。他の副元神は自然にあなたにしたがって修煉するのです。

弟子：東洋系の武術館で弘法してもよろしいでしょうか？

師：人に法を得させることは、どの環境下でも問題はないと思います。ただ、この武術に道家の武術があります。それは気功の部類に入るものです。他は何の影響もありません。多くの大法を修煉している人は武術をも練習しており、何の影響もありません。

弟子：師父は科学の真相と常人社会の各種の良くない現象を明らかにしてから、私の考えに混乱が起き、判断できなくなりました。これを解決することができません。

師：もう一回言いますが、最大限に常人社会に合わせて修煉すべきです。皆さんに教えますが、私は科学の背後にある本当の要素を明らかにしましたが、科学に反対していません。もう一回繰り返しますが、私は科学の真相を明らかにしましたが、私は科学に反対していません。なんとと言っても、科学はこの宇宙の衆生の一種の生命に備わるべきものだからです。私はここで人類にこのような状態があるべきではないことと、人類が変異させられたことの原因を明かしましたが、科学に反対してはいません。行なうべき仕事であれば、行なえばいいのですが、ただこの仕事は佛と比べたら非常に能力が低いだけのことです。修煉が進むにつれ、徐々に分かってきます。

弟子：法を得た当時は非常に興奮していましたが、迷いが深すぎたため、非常に良くないことをしたことがあります。私はもうおしまいになったのでしょうか？

師：大法の修煉はまだ続いており、学習者はまだ絶えず精進しています。あなたは現在このメモを出すことができ、私はあなたのメモを読んでいるので、あなたの縁は浅くはありません。時間を大切にしてください。(拍手)

弟子：私はレバノンから来ており、家族は皆、教徒であり、私はそれを信じていませんが、影響されるのではないかと心配しています。

師：何の影響もありません。あなたはあなたのものを習えば良いのであって、彼らは彼らが信じているものを信じれば良いのです。これは何の影響もありません。彼らが信じているものに見守ってくれる神はいません。見守ってくれる神がいなければ、なおさら影響はありません。

弟子：何回かの重大な心性の関は私が法会に参加する前に起きました。これは先生の法身が安排したのでしょうか？

師：あなたが学習者であれば、私はあなたに責任を持たなければなりません。私があるあなたに心性の関を設けたかどうか、または他に何か具体的な原因があるのではないかということについては、これらの出来事において師父である私はきっとあなたに対して責任を持っています。修煉者に起きた出来事は皆良いことであり、あなたはただ修煉すれば良いのです。皆さんは気づかなかったかもしれませんが、昨日の午前ある学習者の発表の中に次のような内容がありました。彼は自分がいくら修煉しても進歩していると感じられなくなったと言いました。そして、彼はある日、「私はある方面において変わらなければならない」と悟りました。彼がその後煉功したら、この壁はすぐに開かれ、直ちに彼の前に現れたのは他の境地なのです。この学習者の発表を皆さんはよく考えるべきです。

弟子：法輪大法が先史時代に人を済度したことがあるのに、なぜ衆生は法を忘れてしまったのでしょうか？

師：あなたが指しているのは人間のことなのか、それとも神のことなのでしょうか？ 大法に済度された人は皆天に上りました。なぜあなたはそれらの生命が法を忘れたと

知りえるのでしょうか？ あなたに教えますが、ある人が修煉して圓滿成就したら、その人の全ては法によって造成されたのであって、全ては法に同化したのです。あなたは大法の中にいけば、大法の一部になります。実は全宇宙の衆生は皆大法の一部ですが、ますます法からずれてしまっただけです。ある生命は法からずれてしまったら、落ちてしまうことがあります、自らの行くべき次元に行くのです。もし全部法からずれてしまったら、その部分は解体され、また新しい生命を造らなければなりません。

弟子：修煉は、即ち大法に対する理解と記憶を深めることです。この言い方は正しいのでしょうか？

師：こういうことではありません。あなたが今覚えているのは私が常人の中で明かした、最も低い法の表わし方です。あなたが異なる境地で圓滿成就する時に知った法は私が現在あなたに説いた法の内涵以外は、法の文字まで全部違っています。私が言ったことが理解できるのでしょうか？（拍手） ですから、皆さんはやはりどうしても人間の観念で神のことを考えようとしています。

弟子：自分が執着を破って歩んできたのだと気づきました。この執着というのは表面から見て正しいかどうかのことではなく、内涵が違いました。

師：その通りです。大法は異なる次元であなたの修煉を指導する際、心で理解することができますが、言葉で言い表すことができません。常人の言葉と考えになると、その味が変わってしまいます。話がまだ口から出ていないですが、常人の言葉と考えによる思考システムに入ると、その意味ではなくなります。ですから、一旦口にしてしまうと、その境地での本当の意味ではなくなります。皆さんもこのことに気づいたと思いますが、心で理解するしかなく、言葉で言い表すことができません。しかし、皆さんの体験談はなぜ話してよいのでしょうか？ 皆さんが言ったのは最も次元の低い、最も表面的なことと皆さんの以前のことだからです。もちろん、新しい学習者が言っているのは現在のことです。新しい学習者が言っているのはきっと表面にあることなのです。

弟子：師父が何回かお告げをくださったのですが、自分の次元が高いと考えたくないのです。この考えの背後に執着があるのではありませんか？

師：そうだとはいりません。歓喜心が起きるのではないかと心配して、自分を制御している時があります。歓喜心を起こしてはならず、自分のことを必要以上に高く思っ

てもいけないという状況です。これも良いことだと思えます。しかし、このことを固守しすぎないでください。新しい執着になる恐れがあるからです。つまり、正々堂々と修煉することです。

弟子：これはあなたの執着、あれはあなたの執着だと相手のことを言う人がいますが、言う本人は執着の中にいるのではありませんか？

師：双方に原因があるかもしれません。しっかりした考えを持っている質問ですが、この考え自体に執着がないとは言い切れません。相手の執着を言う時に自分の執着が刺激されたから、逆に相手の執着を言うことによって自分の執着を覆い隠しているのではありませんか？（拍手） 執着していると言われた人は、自分の執着を放下することができないから、自分の執着を指摘してくれた人が執着しているということによって、自分の執着を放下しないのではありませんか？

弟子：責任者がもしその位置を自分より能力のある人に譲ったら、大法の発展に貢献することになるのでしょうか？

師：字面から見ると、皆さんはこれが正しいと思うでしょう。これは問題ありません。他の人のほうが修煉も良くできており、能力もあるので、その人が責任者にならないと、大法にとって損失であるかもしれません。もしこの点から認識することができ、大法のために考えるという基点に立って認識することができれば、これは非常に素晴らしいのです。もちろん、逆から言えば、自分自身に非常に深いところに隠されている考えがあり、ひいてはそれが執着であると考えた勇気もなく、それに考え付くとすぐ隠してしまい、そこから避けてしまったら、これも正しくありません。

弟子：私の心、私の一切をもって、私の全てを尽くして師父に捧げるといつも自分を戒めています。

師：皆さんの気持ちは私には分かっています。皆さんに教えますが、これは宗教から来たことです。釈迦牟尼の弟子がお布施を請っていたので、僧侶に一口の食物を与えることが功德無辺のことであると釈迦牟尼が言ったことがあります。しかし、彼に幾らかのお金や財産を与えたら、それは功德無辺なことであると言ったことはありません。宗教が既に佛の要求にしたがって行なうことができなくなったので、現在の貪欲な和尚は多くのお金が欲しいので、私に何かを捧げたら功德無辺になるという考えを宣伝しました。どのように私に捧げるのでしょうか？ 多くくればくれるほど良い

のです。家の財産を全部果たして私に捧げたほうが最も望ましいとまで考えています。皆さん考えてみてください、この上なく利己的になり、他の人の全財産まで奪いたいという利己的な観念を持っており、ひいてはこれでさえ満足できないその心は邪悪の魔よりも凶暴であり、どうして修煉者であり得るのでしょうか？

大法の場合、お金で量ってはいけないのです。あなたも修煉者であるのに、なぜ他の人からのものを受け取ることができるのでしょうか？ なぜ他の人の金を欲しがっているのでしょうか？（拍手） 逆から言えば、あなたに物を要求された人も佛を修めている人であり、でなければ、彼はなぜあなたに物を捧げるのでしょうか？ その人があなたよりも修煉が良くできているかもしれないのに、あなたはなぜ彼から物をもらうことができるのでしょうか？ あなたが彼に物を捧げるべきです。もちろん、現在の宗教は金のため、権力のため、政治に参加していることがありふれているので、何も驚くことはありません。嘘は三回言えば本当のようになるので、聞けば聞くほど正しく聞こえてしまい、正しいかどうかを考えもしなくなりました。もちろん、師父の生活がどうなっているのかと思っている学習者がおり、いつも師父の生活に役立ちたいと思っています。皆さんはこれを考える必要はありません。皆さんの気持ちは師父に分かっています。

弟子：生命の目的は真善忍に同化するほかなりません。もし真善忍に背離したら、私は自ら形神全滅を望みます。

師：皆さんの法に対する理解は非常に深くなりました。圓滿成就したいという決心は磐石のように固いのです。非常に素晴らしいと思います。法の修煉の基礎がしっかりとなったので、このようなことを言えたのだと思います。

弟子：これから師父を受け継いで大法を弘め続ける人がいるのでしょうか？

師：このことをやり終えたら、後はありません。皆さんは宇宙が交替している時期におり、法を正すことが終わったら、未来の人は新たに発展し始めるのです。未来の人は大法のことを知りませんが、歴史上にこの出来事があったことを知るようになります。この大法の法理が何だったのかは、彼らは文字一つ見ることはできません。彼らの新しい文明が築かれる時に、新しい佛、道、神は世に下りて法を伝え人を済度するのです。ですから、未来の生命は同様に佛法を聞くことができます。白人社会にイエスと同じ神がまた世に下りてくるかもしれません。これは新しい紀元になってからのことなので、皆さんと何の関係もありません。

弟子：『転法輪』と先生が既に出版した全ての本に同じ法力が備わっているのでしょうか？

師：そうです。大法であれば、同様にその背後にある無限の内涵が備わっています。皆さんに教えますが、系統的に修煉するには、『転法輪』という本を中心に修めるしかなく、他の本は皆参考だけです。しかし、異なる次元の内涵があるので、異なる次元に異なる次元の参考価値があります。しかし、系統的に修煉するには『転法輪』しかありません。ですから、必ず『転法輪』を中心に繰り返し読むべきです。

弟子：圓滿成就する弟子は非常に高い次元まで済度されるのでしょうか？ さもなければ、これほど大きな法も必要でなくなります。

師：先生がこれほど次元が高く奥深い大法を説いていますが、私たちはそれほど高い次元まで行くことができなければ、それほど高く説いていても、無駄になるのではないかという意味なのでしょうか？ 皆さんに教えますが、既に見えた学習者もおり、毎回の法会で説法を聞いているのは皆さん人間だけではありません。もちろん、彼らは私が言った同じ話を聞いても、皆さんが聞いたようなこの次元の修煉者が理解した内涵ではありません。

弟子：「家に帰りたい」という学習者の発表を聞いて、なぜか知りませんが、涙が止まりません。

師：多分皆さんの最も本質的な部分、最もミクロ的な部分に触れたのかもしれません。

弟子：卍符は佛の次元を表わしていますが、道の次元を表わす符号もあるのでしょうか？

師：公式をもって天上のことに当てはめようとしてはいけません。そういうことではありません。実は他の神はその次元が符号の多さに表われるわけではありません。卍は佛の一種の表れであり、佛のことを表わしています。もちろん、佛はこのような表現形式であり、佛に次元を表わす符号があります。実は天上の神を一目見れば、その次元の高さが分かります。見ればその神の次元が分かります。

弟子：以前の全ての修煉方法は皆副元神が功を得ていたのですが、西洋宗教の修煉方

法の場合、誰が功を得ているのでしょうか？

師：これは聞く必要があるのでしょうか？ 西洋の修煉方法も肉体が死んだ後、副元神が去っていくのではありませんか？ 地上に一人の人間が少なくなってもいけないので、その主元神は続けて輪廻に入ります。

弟子：西洋人はエホバだけが宇宙の唯一の創造者であると思っています。どのように彼らのこの障碍を破ることができるのでしょうか？

師：このように考えている人がいます。道理から説明してあげたり、本を読ませたりすればいいのです。これ以外、他の方法はありません。強制的に相手に信じさせてはならず、本人が信じなければ、現在何の方法もありません。私は話したことがありますが、宇宙にいる異なる次元の神はその次元がいくら高くても、いくら低くても、或いはどの次元にいても、自分より上の次元に何があるのかを知りません。今日私は法理から皆さんにそれほど高い境地があるのを教えましたが、皆さんは人間の迷いの中で道理を聞いているだけです。しかし皆さんが本当に法に溶け込んだ時、あなたはその次元の法の一分子となるので、その時、誰かが更に高い次元の話も教えても、あなたはやはりそれを信じようとしません。皆さんは確かに自分より下または自分と同じ次元にある全てを目に納め、漏れることは何一つありませんが、その状態であなたに見える全ての存在を決して信じようとしません。「先生が現在このようにおっしゃったから、将来私はそれをきっと信じます」とあなたは現在思っていますが、あなたに教えますが、その時になると、私が現在皆さんに説いた法の言語形式と方式は今のようなものではなくなります。

弟子：神に元神がいるのでしょうか？

師：神を人間と比べてはいけません。なぜならば、人間は迷いの中にいるからです。神には元神、副元神またはその他の形式はなく、神はそれ自身だけです。しかし、神には神の体があります。この体の存在も人間の主元神と人間の体との関係のようなものではありません。この関係ではありません。神とその体は一体を成しており、全てをはっきりと分かっていますが、人間には何も分かりません。

弟子：私は新しく来たもので、神と天国の存在を真に信じることができません。もし私は一生懸命に法を勉強し、心を修め、煉功すれば、師父の弟子になることができるのでしょうか？

師：できます。全部できます。修煉さえすればいいのです。あなたより頑固な人が大勢いましたが、やはり修煉して向上してきました。心を放下して修煉してください。実はあなたの話から、あなたが既に大法を学びたいという気持ちが湧いてきたと分かります。これはただの始まりに過ぎません。あなたの現在の考えの基礎から全てを変えようと思っても、現実味のない話です。ですから、法を勉強する中で法理から徐々に分かるようになり、最終的にそれを感じるようになり、触れる、見えるようになります。

弟子：多くの人に重なった影があるのが見えています。彼らの真体が修煉して成就したのでしょうか？

師：大法がめざましい勢いで人を変えているので、あなたはその人の他の空間に存在している体の影が見えました。

弟子：寝る前に先生の説法をもう少し聞きたいと思っていますが、いつも途中で寝てしまいました。これは師父に対して不敬ではありませんか？

師：私はこのように考えています。精進したければ、真面目に法の勉強のことに対処すべきです。眠れないから、法を聞けば眠れるようになると思っていれば、法を催眠するものとして考えてしまい、あなたの心がどこに置かれてしまったのでしょうか？ しかし、法を聞く時に確かに寝てしまう人がいます。なぜでしょうか？ あなたに寝かせてしまい、法を聞かせないものを魔として見なさないのでしょうか？ もしこういうことであれば、なぜそれに勝てないのでしょうか？

弟子：煉功の時に肩が激しく動いている学習者があり、目を開けたままのときも同じです。

師：法を多く勉強させ、本を多く読ませ、真に法に則って向上させるようにしてください。専一に修煉することができなければこのようなことがあります。または肩に病気がある場合、修煉の中でその病気を除去する時にこのように動くこともあります。このことが長く続くと、その人は病気の除去という一つの次元から全く進歩していないということを物語っています。心を純粹にして修煉し、法に則って本当に向上することができれば、このことはすぐ過ぎてしまい、その次元から抜け出すことができます。修煉の時、体に具合が良くないところがあり、長期的に良くならない人はどう

して大法の中で心を放下して着実に修煉しないのでしょうか？ 煉功を通して病気を除去することばかり考えており、または修煉したいけれど本を読まないのであれば、なぜ良くなることがあり得るのでしょうか？ ですから、長期にわたってその状態に止まってしまいます。

弟子：普段多くのことに対して気にしていないのですが、これによって修煉の中の関を乗り越えることに対しても気にしなくなるのでしょうか？

師：修煉の中で大法があなたに震撼を与えることができず、普段の他のことのようになってしまうと、これは本当に問題だと思います。こういう場合、一心に法を多く勉強し、この障碍を破ってください。この障碍は金城鉄壁のように突き通すことができず、あなたの悟性と法に対する認識にひどく影響しています。なぜそれを破って開かないのでしょうか？

弟子：私はひどい悪事をしましたが、まだ修煉することができるのでしょうか？

師：実は皆さんは法を得てからも、このように再三に間違いを起こすべきではありません！ あなたが放下できない執着によって、それが間違いだとはっきり分かっているにもかかわらずやっつけてしまいました。教訓を汲み取り、それを原動力にし、心を入れ替え、生まれ変わり新たに始めなければ、この機会を失ってしまいます。

弟子：法理に対していつも新しい理解がありますが、これはただ理論にとどまっているのでしょうか？

師：新しい理解があるということは向上しているということです。差がとても大きいと感じていますが、差があると感じたということはつまり向上しているということです。常人は自分のどこに間違いがあるか見えません。この状態で悟った理は理論にとどまっていることではなく、そうではありません。ミクロ的な変化がまだ常人社会に現れてくることのできないため、法理からあなたが理解したことまたは感じたことを表わすしかありません。こういう状況です。

弟子：「嫉妬心を取り除かなければ、修煉した全ての心が非常に脆弱なものになる」とありますが、ここで指しているのはどういう心なのでしょうか？

師：ここで指している全ての心はもちろん、あなたの修煉の中の全ての正念のことで

す。正念は実は正しい認識のことであり、つまり、あなたが修煉してできたその部分が非常に脆弱なものになるということです。

ここまで話してあることを思い出しました。最近香港で出版した『長春輔導員法会での説法』の十二ページの三行目に「人類の法」という言葉があります。「人類」を「宇宙」に直してください。つまり、「宇宙の法」になります。大陸で出版された本の十四ページにあるようです。

弟子：家で『転法輪』を通読する時の進み具合と集団で法を勉強する時の進み具合に違いがあるのですが、修煉に影響するのでしょうか？

師：真面目に勉強していれば、影響はありません。皆さんに教えますが、『転法輪』を読む時に最初から最後まで読めば良いのです。今日読み終えなかったら、明日そこから続けて読めば良いのです。まだ読み終えてなければ、次回続けて読めば良いのです。このように読むのです。内容を選んで読まないでください。最もいけないのは、初めて『転法輪』を読む人が人間の観念を抱いて法を量っており、「この部分の内容がとても良かった、あの部分に対して疑問を持っている」と思ってしまうことです。こういう場合、読んだ一冊の本が全部無駄になり、何も得ることができず、本当にもったいないのです。法は厳粛な天の法だからです。人間は自分にどれほどの業力があるかを知らず、自分の考えがどこから来ているのかも分からないのです。人間の考えをもってこの法を量っているのです、何も読み取ることができません。何の観念も抱かず、本を手にとって読んで、読み終えてから判断してください。読んでいる途中で法の良し悪しを判断しないでください。

弟子：冬、外で煉功する時に厚着をしているので、煉功の時衣服に当たりやすくなり、これで機制を乱してしまうのでしょうか？

師：冬厚着をして煉功する時に衣服に当たることは煉功に影響しません。非常に寒い時、手袋をつけて煉功すべきであり、凍傷にならないでください。実は煉功者は寒さで傷つくことはありませんが、そうなった人がいます。なぜでしょうか？ 皆さん考えてみてください、強制的に大法を修煉させてはならず、本人の自由意志からでなければなりません。大法は修煉の中で絶えず新しい学習者が入って学びにきますが、彼らはそれほど大きくて高い悟性と高い次元がなく、試練をまだ経験していないので、修煉しに来ているとは言えません。つまり、真に修煉する弟子として見なしてはいけません。このような人が凍傷になったら、法にひどく影響してしまうのではありませ

んか？ 入門したばかりで、入ってきたばかりの人なので、修煉者であるかどうかはまだ断定できません。もし試してみようと思った時に凍傷になってしまったら、影響はひどくなるのではありませんか？ 修煉の中で絶えず新しい学習者が入ってくるので、皆さんはこのようにしてはいけません。どうしてもこのようにした学習者がいますが、凍傷になってしまいました。実はこれは彼の業力を除去することを手伝っていると同時に、この形は本人を悟らせています。

弟子：動作がかなり違っている人がいますが、機制と法輪に影響しないのでしょうか？

師：大分違っていれば、それはいいけません。少し違っていれば、誰の動作も同じ模型から作り上げられたもののよう、機械から作り上げられたもののよう、全く同じになることはあり得ないので、お互いの間にきっと違いがあります。違いがなくても、それぞれの身長にまた違いがあるので、やはり違いがあるのではありませんか？ つまり動作は完全に一致していることはあり得ないということです。そうではありませんか？ しかし、動作に大きな違いがあれば、それはいいけません。できるだけ正確にすべきです。

弟子：酷暑と厳冬の日で外で煉功したほうが室内で煉功するより、業力は速く消されるのでしょうか？

師：これは私が先ほど言ったことです。外で煉功するのはもちろん良いことですが、人為的に苦を探して嘗めてはいけません。北方地域に住んでおり、冬も非常に寒いので、外で煉功する時必ず防寒服を着て手袋を付けなければなりません。実を言うと、それくらいの寒さではたいした業を滅することができません。心性の向上だけがあなたの向上の鍵です。(拍手)

弟子：国内で師父に会うことができず、私の地元の弟子は師父によろしく伝えてくださいと再三に言われてきました。

師：ありがとうございます。(拍手) 私は国内の学習者の気持ちを非常に理解しています。国外で法会を開くのはとても簡単で、この前ロサンゼルスで開きましたが、まだそれほど経っていないのに、また皆さんにお会いしました。国内の弟子の場合は非常に難しいのです。国内の弟子が数千万、一億近くいますが、私に会うことはとても難しくなっています。一旦私がどこで姿を現すのか、どこに泊まるのかを知ったら、

全ての学習者は皆そこに駆けつけてしまいそうになります。飛行機や汽車がいっぱいになり、道も塞がってしまうので、政府はそれを承知しなくなります。ですから、国内の学習者に安定した環境があり、影響されずに修煉でき、社会に影響を与えず、政府に厄介なことをもたらさないように、彼らに会いに行くことができません。

弟子：師父はベルギーに行く機会があるのでしょうか？ 弘法の中で講習班や講座を開く時に金を取る人に会いました。

師：ベルギーに行く機会があります。（拍手）講習班や講座を開く時にお金を取ってれば、その人は私たち大法の弟子ではありません。これは間違いのないことです。（拍手）その人が大法をもってお金を手に入れているので、これは小さい問題ではありません。しかし、場所の問題を解決するために、学習者がお互いに自由意志で解決するのであれば、私は反対しません。これ以外は全部だめです。

弟子：今年の方が去年よりも速く進んでいると最近感じていますが、これは何を意味しているのでしょうか？

師：もちろん、以前私はこのようなことを話したことがありますが、こういう話は人々に信じられず、とてもレベルの高い話をしなければなりません。しかし、皆さんはいつもこれらのことについて聞いています。実は私は全ての時間を越えてこのことを行なっています。さもなければ、考えてみてください、ある生命はある時間場に入ったら、その時間に制約されます。他の時間場に入ったら、またその時間に制約されてしまいます。私の一生、十生、百生、千生、一万生一万世を使い果たしてもこのことを終わらせることができません。私は全ての時間を超えて行なっており、如何なる時間にも制限されていません。このことを速めるために、天体全体の時間を早めなければなりません。ですから、最大の法輪は最も高いところで回転を早くし、時間を早めています。天体全体の上と下がつながっているので、時間はますます速くなっています。どこまで速くなっているのでしょうか？ 異なる時間と空間にいる生命にとって、いくら速くなってもその空間の中の全ても共に速くなっているのです。速くなったと感じられません。私が言ったこの意味が分かりますか？ 同様に一日は二十四時間であり、皆同じようにそれぞれのことを行なっており、この空間全体の時間が速くなりましたが、時計はやはり二十四時間通りに動いています。ですから、人々は速くなったと感じられません。人間が見た日の出と日の沈みも同じくこのように循環しています。

全てが速められた時、全てが速くなっており、あなたの新陳代謝、動作、目つきと考え方まで共に速くなっており、異なる次元にいる生命が存在している環境も同様に速められ、全てが速くなっているため、誰も速くなったと感じられなくなりました。どこまで速くなったのでしょうか？ 今日一日は一秒くらいになっています。思うと、人間は実はとても気の毒です。しかし、人間はまだ興味津々で人間のことをやっており、自分が偉いと思い、まだどこそまで発展したいと思っています。人間は取りも直さず人間であり、人間は無知の中で自分を壊滅している時になっても、それを知らないのです。クローン人間が本当に造られた時は宇宙人が正式に人間に取って代わる時です。なぜならば、神は造られた人間に元神を与えることはないからです。そのため、造られたこの人間は死体のようになり、神がなければ生まれたら死んだものと同じになります。それではどうするのでしょうか？ 宇宙人はこの隙に乗じて、その人の神になります。

弟子：圓滿成就したら続けて『転法輪』を勉強することができるようでしょうか？

師：天上の神も大法を勉強していますが、読んでいるのはこのような文字ではなく、法が彼らのそれぞれの次元で表わしたものです。

弟子：修煉の道は師父に按排されているものですが、人為的に仕事と生活の環境を変えるのは、修煉に影響するのでしょうか？

師：皆さんが人為的に苦を探して嘗めることを私は望んでいません。しかし、そういう条件があり、条件が整っており、更に良い仕事を探そうとすれば、このようにすることはお勧めします。条件が整って、各方面にも問題がなく、場所を変えて住んでみたいと思うのは何の影響もありません。多分これが即ち修煉の中にいます。もちろん、見通しのないことをどうしてもやろうとし、ひいてはどうしても苦を探して嘗めようとするのならば、このことを悪くしてしまうかもしれません。しかし、大法の中でこの法理を悟る時、良く考えて、無理にやらないでください。

弟子：法を討論し研究してはならないと師父がおっしゃいましたが、自分の法に対する理解と認識を話すのもいけないと思っている人がいます。

師：それはいけません。私たちが今日ここで集って話すのも間違いなのではないでしょうか？ このように認識してはいけません。今日の法会のように自分の体験を話してはいけないのであれば、それは間違いです。これと違って、自分の放下できない執着を話した

り、この執着によって、大法に対して間違っただけの理解または大法のこれからの方向に対しても問題をもたらしたら、なぜ他の人が言わせてくれないのかを良く考えるべきです。もし自分にこの問題がなければ、相手が間違っただけになります。この神聖な法会で私の口を借りて誰それを注意したり、咎めたりしようとするならば、それはあなたにできないことです。なぜならば、私にあなたの考えの根源が見えるからです。

弟子：ある日突然「師父」という二文字に新しい内涵が賦与されたと分かりました。これは最も神聖な二文字です。

師：つまり、この二文字の背後にある内涵をあなたに表わしたからです。皆さんは大法の一文字一文字を軽視しないでください。各文字の背後は皆佛であり、各文字は皆法なのです。ですから、選んで法を読んでおり、これを読まないあれを読まない、これが理解できる、あの部分に同意できないなどと思ったら、何も読み取れなくなります。

弟子：先生は異なる次元で天国を作りましたが、これらの天国の名前は何かでしょうか？

師：人間は釈迦牟尼佛という次元の如来しか知ることができず、更に次元の高い神のことを皆さんに分からせることはありません。私は何回もこのことについて話したことがあります。人間にはそれが分かるとはならないと私は早期の段階で既に話しました。更に次元の高い神の名前さえ人間に知らせてはならず、人間が彼らの名前を口にするには許されていません。それは神を罵っていることに等しいのです。なぜなら、人間は彼らにとってあまりに低いからです。皆さんに教えますが、神が人間を自分の同類として見なしたことは一度もありません。神は人間のことを哀れに思っており、人間に慈悲深いのですが、神が慈悲に思っているのは人間のこの生命です。しかし、彼らは人類を獣だと思っています。（しかしこれは進化論で言われている概念ではありません）

弟子：法輪大法は先史のある時期に広く人を済度したことがあり、今回の人類に初めてこれほど高いレベルの法を伝えていますが、今までと現在が伝えている大法は同じなのでしょうか？

師：一、この宇宙の法は誰が最初に伝えたのでしょうか？ 二、その後の歴史の中でもし私がこの宇宙大法の一部を伝えるのであれば、私はこの法を伝えることにならな

いのでしょうか？ 私は人間に法を説く時にそれほど高いレベルの法を説く必要があるのでしょうか？ ありません。私は歴史の中でこの法を正しにきたのではなく、法の間を渡るといふ部分だけを説いたのなら、それが宇宙の法ではないのでしょうか？ 私は高い次元の内容ではなく、人間が知るべきその次元の内容だけを説きましたが、それはこの法ではないのでしょうか？ 同様にこの法なのです。

弟子：宇宙の中でどうして生命が生じなければならないのでしょうか？

師：微生物が自分の考え方で人間を認識していると同様に、人間の考えは永遠に神の存在とその考えを分かることはできません。人間は宇宙についてまだ認識しておらず、宇宙がどういうことなのかを知らないのに、なぜ宇宙の中のことを聞くことができるのでしょうか？ この質問はつまりなぜ宇宙がなければならないのか、ということを知っているのと同じです。なぜ宇宙と生命がなければならないのかということを知る必要はありません。これはあなたに分かることのできることでなく、あなたが分かるべきことでもありません。いくら高くまで修煉しても、これはあなたに分かるようなことではありません。もちろん、宇宙を造って、中に生命もなく、何もないならば、ちっとも面白くないのではありませんか？ 人間の言葉で言うと、主（全ての王の中の王）または主、佛、道、神が一体になった王の中の王がこのようにしたいからです。

弟子：生命の最終的な存在意義は何でしょうか？

師：あなたは人間の考え方で宇宙と生命の意義を考えており、これは全く人間が思っているような認識ではありません。人間のことに話してみましよう。もし人間がもう生きてなくなるまで生きていけば、私は法を説く必要もありません。人間は皆生きていきたいからです。私がここで言っている人間は全体的に皆さんに対して言っているのです。実は私が話した、皆さんが分かった内涵より次元の高い内涵を全く理解することができません。異なる次元の生命は皆彼らなりの存在の意義と生きることに對する真の理解をもっています。彼らの次元での真の理解と皆さんの理解とは全く違うものです。人間の認識は全部逆になっているので、真相を見ることができず、前途も見えず、何に對してもはっきりと悟ること、見透かすことができません。科学がいくら進んでいても、この空間で這い回っているだけなので、皆さんに多くのおかしい考えがあります。もし如何なる觀念をも持たずに問題を判断するのであれば、あなたは非常に素晴らしい偉大な神になります。しかし、これは人類にはできないことです。

「私にはそれができます。私が言ったことは皆他人のためになるようなことであり、ほかは何も考えていません。しかし、相手の機嫌が悪くなりました」という人がいます。しかし、あなたが言った話には本当に何もなかったのでしょうか？ 皆さんが話している時、後天的に形成された観念、異なる時期に形成された観念と考えにある業力が入り混じった後に果たしている作用を知っているのでしょうか？ 人間の考えは永遠に純粋で清らかになることはできません。あなたのところに現れるものにはあなたがそれに気づくことができますが、現れてこないものにはそれに気づくことができません。ひいては現れてもそれに気づかない人もいます。ですから、ある人間が話したことの要素に複雑なことが多く含まれています。神が言った話は人間にとって絶対的に純粋で清らかなのです。自分が慈悲であるといっていますが、あなたの慈悲に多くの異なる時期に形成された人間の観念が含まれています。なぜならば、あなたの思惟は人間の考えであり、あなたの考えの中に何でもあり、あなたの思惟から発した考えの中に何でもあります。修煉はつまり不純な全てと低能なすべてを取り除くことです。

弟子：泣くというのはある時期の状態ですが、なぜ一年も経ったのにこの状態を乗り越えることができないのでしょうか？

師：妨害であるかもしれません。なぜいつも乗り越えることができないのでしょうか？ 法が聞こえなくなったのにまだ泣いているのであれば、これは正しくありません。もちろん、私はこの学習者を指しているではありません。もし幾つかの問題において、あなたの修煉に影響していない状況下でこの状態が現れたら、他の原因があるかもしれません。以前やった間違ったことまたは自分が変えられているという状態を見て、この全ての変化はあなたが夢にも想像できないことです。地獄からあなたを拾い上げ、きれいにしてあげた上、それほど偉大な全てを与えているので、泣かずにいられるのでしょうか？

多分皆さんは私のいつかの世と親族の縁があったかもしれません。何でもあり得ます。こういう原因です。

弟子：十八Kの金の世界で生じた生命が既に不純になり、法が正された後の二十四Kの金の世界に戻ろうとすれば、厳しい基準で要求してはじめて、圓滿成就することができます。そうでしょうか？

師：そうです。しかしすぐには達することができず、絶えず修煉する過程で徐々に達

するようになります。その時の全ては当たり前のようになり、非常に自然です。強制的にこうすべきだということはありません。このことに言及しましたが、当時皆さんの幾つかの問題を処理する時のことを思い出しました。皆さんの生命の最もミクロ的な全てを処理し終えましたが、まだおかしいところがあると私は気づきました。皆さんの生命を構成しているもっと隠れている所では、基本物質まで変異し、頑として何をもっても変えられないものを形成しました。他の神から見れば、生命の本質までだめになったら、この宇宙をこれ以上残してはいけなくなりました。しかし、私はそれを全部変えてあげました。(拍手) これは非常に難しいことで、少しでもずれや間違いがあったら、皆さんの将来の全てに影響してしまいます。ですから、非常に難しかったのです。当時私が法を正し始めた頃のことを思い出しましたが、これは本当に難しかったのです。私が言っているのは皆さんに存在している現象ですが、更に高い次元にも最もミクロ的な、最もミクロ的なこのような状況が存在しているのではありませんか？ ですから、このことは本当に非常に難しいのですが、私はやり遂げることができ、基準に達することができ、しかも今までの最も良い基準を超えました。(拍手)

私が更に気づいたのは、人類に変異が起きたのはとても高い次元で相当次元の高い物質が変異したからです。しかもこの変異したものは非常に頑固です。人間のこの所での直接的な表れ方は現在の若者の表面行為と関係しています。つまり、責任感がなく、ちゃらんぽらんで、やりたいようにやっており、大声で叫んだり、音楽を流して訳も分からない変な踊りをしたり、ゲームをしたりするなどの頭の中はいわゆる現代生活的なもので一杯です。

弟子：座禅は単盤をしていますが、足の激しい痛みは連続しており、断続的な痛みではありません。

師：もちろんそうです。私が言った断続的な痛みは既に双盤ができた時のことです。その時、断続的に痛みを感じるがあります。足を組めるようになったばかりの時は持続して痛むのです。それはあなたが今まで双盤したことがなく、または足を組めるようになったばかりだからです。それは本当に持続的に痛み、一秒も続けられずすぐにでも足を崩そうと思ってしまいます。こういう気持ちです。本当に震えるほど痛くて我慢できず、心をえぐるような痛みで、落ち着かず痛みます。私は皆さんの全てを良く理解しています。この状況は二つの面から説明することができます。今まで足を組んだことがないので、骨が硬くなり、筋を伸ばすことができないからということかもしれません。または業力によるものです。この二つの可能性があります。

弟子：自分と大法の要求といつも差があると感じ、時間が足りないと思っていますが、これは執着なのでしょうか？

師：後の一文は執着であり、前の一文は正しいのです。時間などを考える必要は全くありません。ただひたすら修煉していれば、圓滿成就に向って行くのです。しかし、あなたは精進しなければなりません。ぐずぐずしており、十年、八年、二十年、ゆっくりやっつけていけばいいと思っているのであれば、私はあなたを待ちません。

弟子：修煉者が修煉して圓滿成就した世界まで濟度される衆生は修煉者と縁のある人でしょうか？

師：あなたの世界の衆生はこの世で皆あなたと縁があったかもしれません。私はあなたのその心を見えています。修煉して圓滿成就したら、あなたが造った借りはどうなるのでしょうか？ 皆さんの修煉の過程で私は皆さんの世界をも圓滿させています。あなたが借りを持っている生命はあなたの世界の衆生になるかもしれません。その生命はもちろん喜んでいます。これはあなたの慈悲の表れ、威徳の表れであり、その生命をも濟度しました。これでこのことを良いことにしました。(拍手)

弟子：修煉の過程で法を悟ることは真善忍の最も高い次元での特定の内涵を悟るためであると言って良いのでしょうか？

師：このようなことではありません。私が言った悟りというのは修煉の過程で全てのことに對して正念をもって対処することができるかどうかのことです。私のこの話は適切に大法修煉の悟りを言い表しました。座ったままで、この文字の背後にどのような内涵があるのか一生懸命考えることではありません。このようなことではありません。どうしても悟性の低い人がいて、具合がちょっと悪くなったら、「先生、なぜ具合が悪くなったのでしょうか」と私に聞いたり、または「私は今日どうしてこんなに調子がわるいのか」と他人に聞いたりします。次の日に気分を損なうことに出遭ったら、なぜ私がいつも気分を悪くすることに出遭うのかと言うのです。ですから、この人の悟性は本当に低いのです。実は体の具合が悪くなったのは、病気を除去しているのであって、または功が伸びる時に現れた状態ですが、それを悪いことと理解しています。難儀に遭った時はちょうど心性を高めるチャンスです。修煉しなければならぬので、この条件がなければどうやって修煉するのでしょうか？ これにも耐えられず、あれにも駄目であれば、どのように修煉するのでしょうか？ 修煉しようがなく

なります。これはこの人の悟性があまりに低いということです。私が言っている悟りというのはこの意味の悟りです。

弟子：中国、世界の多くの人が修煉していません。先生からこのような人に最も重要なことを話していただきたいのです。

師：私が説いた法に皆意味があり、目的があるのです。人間は取りも直さず人間であり、人間に何を話すと言うのでしょうか？ 皆さんに教えますが、私は皆さんを人間として見なしていません。皆さんは修煉の中の人であり、神の状態だからです。（拍手）

弟子：学習者が自分の近くで煉功することだけを輔導站は許しており、集団で弘法煉功することを許していません。

師：あなたが言ったこの状況はあなたの悟りの間違いであるかもしれず、輔導站の責任者の仕事に不適切なところがあるかもしれません。双方に問題があるので、私は具体的にあなたに何かを話すことができません。しかし、私のこの言葉をしっかり覚えてください。つまり、二人の間にトラブルがあって、第三者がそれを見たら、この第三者まで自分のどこに間違いがあるのか、なぜ私がこれを見たのかと考えるべきです。ましてトラブルの当事者はなおさら自分を見るべきです。内に向けて修煉するということから、このことが間違いだと感じた時、この出来事はあなたの観念に合っていないのか、それとも大法に合っていないのかも見てみるべきです。自分の考えが正しければ、大法に対して責任を持つべきということから、責任者にあなたの理に適った正しい考えを提案すれば良いのです。責任者も修煉者なので、あなたの提案を考えたいと思います。こういうことです。

弟子：師父は「堅実」という経文の中で他の空間からの妨害が異なる方式で学習者と接触することによって破壊をしているとおっしゃいました。

師：このようにお話ししましょう。つまり、大法に合っていないことをやらせようとしたら、それをしてはいけません。大法の動作ではない動作を教えたら、それを習ってはいけません。大法の中のことでないなら、それらについてやってはいけません。これで十分です。私の法身に成り済ましている悪者がいるので、あなたは良く判断し、大法をもって量るべきです。法身に頼って法身の言うとおりにすること自体は既に魔を招いているのです。

弟子：師父が法を伝えている時のことを教えていただけませんか？

師：私があなたに教えられるのは、この法と、どのように上に向って修めるかのことだけです。心をこういうことに置きましょう。知りたい他のことを圓滿成就後に置いておけば良いのです。今はあれこれを考えなくて良いのです。

弟子：師父が弟子たちに法輪を与えたことの最も深い意味は、弟子が元の位置に圓滿成就した後に永遠に落ちてこないようにするためです。

師：このようにしたいと思っています。(拍手)

弟子：李先生、あなたの光輝きでアフリカへ来て頂くことができますか？

師：多くのことはあなたが思ったようなことではありません。実は、中国人学習者の中に前世黒人だった人がいます。白人学習者の中に黒人だった人もいます。つまり、これほど重要なことはあなたが想像しているような簡単な表面形式ではありません。済度すべき人を私は漏らすことはありません。(拍手) 本を多く読んで、法を多く勉強し、絶えず向上するようにと望んでいます。

弟子：先生が法を伝えることを止めた後、法輪大法が宗教にならないように私たちはどのようにすれば良いのでしょうか？ ご説明願います。

師：これは心配する必要はありません。私はこの大法と一緒に、この世で全てを終わらせるまでいます。(拍手)

弟子：楽しく遊んでいる時に罪悪感があります。これはなぜでしょうか？

師：あなたに教えますが、多くの楽しいことは良いこととは限りません。なぜでしょうか？ 現在の人間はこの時代の流れに従っているから、物事の良くない一面があるということに気づくことができません。昔の古い観念で量ると、それが良くないことだと分かります。もし大法で量ると、それがもっと良くなり、大法に合っていないと気づくのです。しかも、強く遊びたい心も一種の執着であり、大法の修煉に影響しています。

弟子：時に心性が高まったという光景が頭をよぎり、本当のこのように思わせてくれます。

師：心性が高まった時の美しい光景はもちろん良いことで、しかも本当のことです。現在皆さんが感じるのは、皆さんのこのような感じ方から感じ取るしかなく、常人の現実にまだ現れてはいけません。皆さんがまだ修煉しており、常人の体をもってまだ修煉しています。常人の体にまだ多くの良くないことがあるので、それらのものをも神のようにしてはいけません。ついでお話しますが、最近多くの方は、中に古い学習者も新しい学習者もいますが、天目のことに執着するようになっています。本当のことをお話しますが、その大きな原因は、皆さんの考えに多くの良くない考えと観念があるからです。天目という智慧の目が人類空間を超えた光景を見た時、それらの良くない考えと観念もそれが見えましたが、良くないものに神の真実の形象を見させてはいけません。分かったのでしょうか？ ですから、多くの方はしばらくまだ見えないのです。

弟子：私は自分の心性の状態が分かっています。同時に魔性があると感じました。私はどのように魔性を取り除くのでしょうか？

師：実はこれはとても良い状態です。つまり、あなたは自分の良くない一面を感じることができるようになったのです。それでは、あなたはそれを排斥し、抵抗し、それを要らないように思い、考えの中でそれを排斥し、その考えに従って行なわないようにし、二度と良くないことをしないようにすべきです。このようにしたら、あなたはつまり修煉しており、向上しています。これが修煉というのです。

弟子：集団で煉功する時に先生が功法の口訣を言うのを聞いているだけでいいのか、それとも皆一緒に声を出して言うほうが良いのでしょうか？

師：これは心の中で念じれば良いのです。私たちの口訣は心で念じるものです。しかし、声を出して言うことに私も反対しません。もちろん、声に出して言った方が、集団煉功の動作が一致するので、それも良いのです。これは皆さん自身で決めれば良いのです。私は形式を問いませんが、集団煉功の時に動作がそろっているほうが人々に良い印象を与えるのではありませんか？ これは皆さんの状況に従って行なえばよいのです。私はそれに反対もせず、皆さんに何らかの規定を作ることもできません。自分の状況にしたがって行なえばよいのです。これが良いと思えば、そうすればよいです。

弟子：どうか国内の弟子にお言葉をくださいますようお願いいたします。これは私たちが法を学び、勇猛邁進することに非常に大事なのです。

師：実は私が先ほど説いた全ての法は国内の弟子に対して言ったことでもあります。皆さんが先ほど撮った録画と録音はきっと国内に伝わっていくと思います。(拍手)

弟子：先生が情の執着を放下するようにとおっしゃいましたが、なぜ神は涙を流すことがあるのでしょうか？

師：神は慈悲の涙です。神の感じ方と悟りは決して人間の情と同じではありません。決して同じ次元のことではなく、同じ概念ではありません。しかも更に更に高い次元の神は人間に対して涙を流すことはなく、神は自分以下の衆生のために涙を流しているのです。なぜならば、神の目から見れば、人間は他でもなく人間だからです。

弟子：何もしたくはありませんが、先生の経文を読んで驚いてしまい、緊迫感を感じています。しかし、心が焦るようにならないのです。

師：つまり惰性があなたを邪魔し始めています。ですから、それを突破すべきです。誰でも惰性に遭います。時々強くなり、時々緩和されています。つまりあなたの煉功と修煉の精進を阻害するものです。それを破りなさい！ それを突破しなさい！ 惰性の鍵、惰性があなたを障碍できることの鍵はあなたが執着しているものであるかもしれませぬ。それを開けることができれば、すぐにそれを取り除き、突破することができるようになるかもしれませぬ。(拍手)

弟子：未来の宇宙が原始生命を必要としているので、先生はやって来られました。地球上にこの原始生命が多いからでしょうか？

師：私がここに来たのはここで原始生命を済度しにきたのではなく、この概念ではありません。私がこの世で説いた法は全ての空間で法を聞くことができるので、私はここに来て法を説いたのです。さもなければ、私が他の次元で法を説いたら、その次元以下の生命、人間も含めてそれを聞くことができなくなります。もちろん、異なる次元に皆原始生命があります。

弟子：国内では佛事を大に行なっています。

師：これらのことに私たちは関わりません。皆常人の中のことです。佛事をする目的は加護を得ることと財を成すためです。廟を建てたら、金儲けしたり、観光地にしたりするためです。人間は他でもなく人間であり、私たちもこれに関わりません。佛教が人間の一部となってしまったので、人間がやりたいようにやらせれば良いのです。

弟子：今回の法会に参加した国内の十九の省市区、三十三の地区の大法弟子は地元の大法弟子を代表して師父にご挨拶を申し上げます。

師：ありがとうございます。(拍手)

弟子：今回の法会に参加した他の国からの大法弟子は自国と地元の大法弟子を代表して師父にご挨拶を申し上げます。

師：ありがとうございます。(拍手)

大手印を打ってほしい学習者がいますが、必要があるのでしょうか？(拍手)

それでは、大手印を打ちます。その後、法会を終わりにしましょう。

法会はもうすぐ終わりますが、今回の法会は非常に成功しました。今回の法会を通じて学習者にある程度の向上があったと私は知っています。皆自分の差を見出し、更に精進するようにと分かったのです。(拍手) 大会は予定した目的に円満に達し、これは非常に素晴らしいことです。在席の中に古い学習者以外、初めて大法を聞きに来ている人もいます。この会場に入った人が皆『転法輪』を手に入れ、この大法が一体どういうものかを見てみて、大法に対してある程度の理解を得るようにと望んでいます。あなたに教えますが、現在世界の一億あまりの人が大法を修煉しています。(拍手) 今回の法会を通じて、これを原動力にし、更に精進し、次元の向上が更に速くなり、遅れている人が速く追い付いてくることができ、間違った道を歩んでしまった人が速く戻ってこられるように望んでいます。(拍手) 機会を失ってはならず、時機は再びやってきません。再三に機会を失ってはなりません。今回の法会の後、アメリカ東部地区、または全米、或いは他の地区に駆動力を与え、更に多くの方が大法修煉に加わり、世界の最も良い人になり、更に良い人、更に高い境地での良い人になると思います。(拍手) これくらいにしましょう。ここまでにしましょう。ありがとうございます。皆さんが一日も早く圓滿成就できるようにと望んでいます。(拍手)

